

長岡市障害者生活実態調査報告書 (概要)

集計・分析
長岡大学 米山 宗久

1. 調査目的

- 障害者の生活実態等の把握
- 第6期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、第1期障害児福祉計画の基礎資料
(令和3年度～令和6年度)

2. 調査設計と回収結果

| 調査区分 | (1)在宅者調査 | | | (2)施設入所者調査 | (3)高齢者調査 |
|------------------|---|--------------|--------------|------------------------------|---|
| 調査対象 | 障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している18歳以上65歳未満の方 | | | 新潟県内の障害児・者入所施設に入所している18歳以上の方 | 障害者手帳(身体障害者手帳(10%抽出)、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している65歳以上の方 |
| 調査票名称(略称) | 調査票A (A票) | 調査票B (B票) | 調査票C (C票) | 調査票D (D票) | 調査票E (E票) |
| 所持している障害者手帳による区分 | 身体障害者手帳 | 療育手帳 | 精神保健福祉手帳 | | 身体障害者手帳 療育手帳 精神保健福祉手帳 |
| 調査方法 | 配票・回収ともに郵送法 | | | | |
| 対象者数(送付数) | 2,020人 | 1,352人 | 1,589人 | 413人 | 1,192人 |
| 有効回収数 | 1,235人 | 857人 | 975人 | 250人 | 841人 |
| 有効回答率 | 61.1% | 63.4% | 61.4% | 60.5% | 70.6% |
| 調査基準日 | 令和元年8月1日 | | | | |
| 調査期間 | 令和元年9月24日～10月7日 | | | | |

| 調査区分 | (4)障害児調査 | | | | |
|------------------|--|------------------|------------------|------------------|-------------------|
| 調査対象 | 障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している18歳未満の方 | | | | |
| | 就学前児童 | 小学校段階 | 中学校段階 | 高等学校段階 | 義務教育修了後・高等学校等に未就学 |
| 調査票名称(略称) | 調査票F-1 (F-1票) | 調査票F-2 (F-2票) | 調査票F-3 (F-3票) | 調査票F-4 (F-4票) | 調査票F-5 (F-5票) |
| 所持している障害者手帳による区分 | 身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳 | | | | |
| 調査方法 | 配票・回収ともに郵送法 | | | | |
| 対象者数(送付数) | 615人 | | | | |
| 有効回収数 | 56人 | 112人 | 85人 | 91人 | 3人 |
| 有効回答率 | 56.4% | | | | |
| 調査基準日 | 令和元年8月1日 | | | | |
| 調査期間 | 令和元年9月24日～10月7日 | | | | |

3. 主な調査項目

- H28 調査と今回調査の経年比較を基本とし、調査項目はH28 調査と概ね同様
- A票、B票、C票は、就労状況と就労意向
- D票は、地域生活移行に対する意向
- E票は、介護保険サービス利用状況
- F票は、受けている教育（療育）段階に応じて、学校・サービス・就労・進路など
- A～F票に新たに文化・スポーツの設問を入れた。

| 項目 | 在宅者調査 A票、B票、C票 | 施設入所者調査 D票 | 高齢者調査 E票 |
|-----------------|-------------------|---------------|-------------|
| 基本属性 | ○ | ○ | ○ |
| 生活の場について | ○ | ○ | ○ |
| 文化・スポーツについて | ○ | ○ | ○ |
| 就労について | ○ | | |
| 介護保険サービスの利用について | | | ○ |
| 入院・通院について | ○ | | ○ |
| 外出について | ○ | ○ | ○ |
| 相談窓口について | ○ | ○ | ○ |
| 災害時について | ○ | | ○ |
| 障害のある人への差別について | ○ | ○ | ○ |

| 項目 | | F-1票 | F-2票、F-3票 F-4票 | F-5票 |
|---------------|------------------------|------|-------------------|------|
| 共通回答項目 (Ⅰ) | 基本属性 | | | |
| | 文化・スポーツについて | | | |
| | 相談窓口について | | | |
| | 相談支援ファイル「すこやかファイル」について | | | |
| | 預かりサービスについて | | | |
| | 障害のある人への差別について | | | |
| 個別回答項目 (Ⅱ) | 学校について | | ○ | |
| | サービス利用について | ○ | ○ | |
| | 就労について | | | ○ |
| | 生活の場について | | | ○ |
| | 外出について | | | ○ |
| | 相談場所について | ○ | ○ | ○ |
| | 保育園や幼稚園、認定こども園の利用について | ○ | | |
| | 個別の教育支援計画及び指導計画について | | ○ | |
| | 進学・進路先について | ○ | ○ | |

4. 基本属性

(1) 回答者

調査票の回答者について尋ねた。

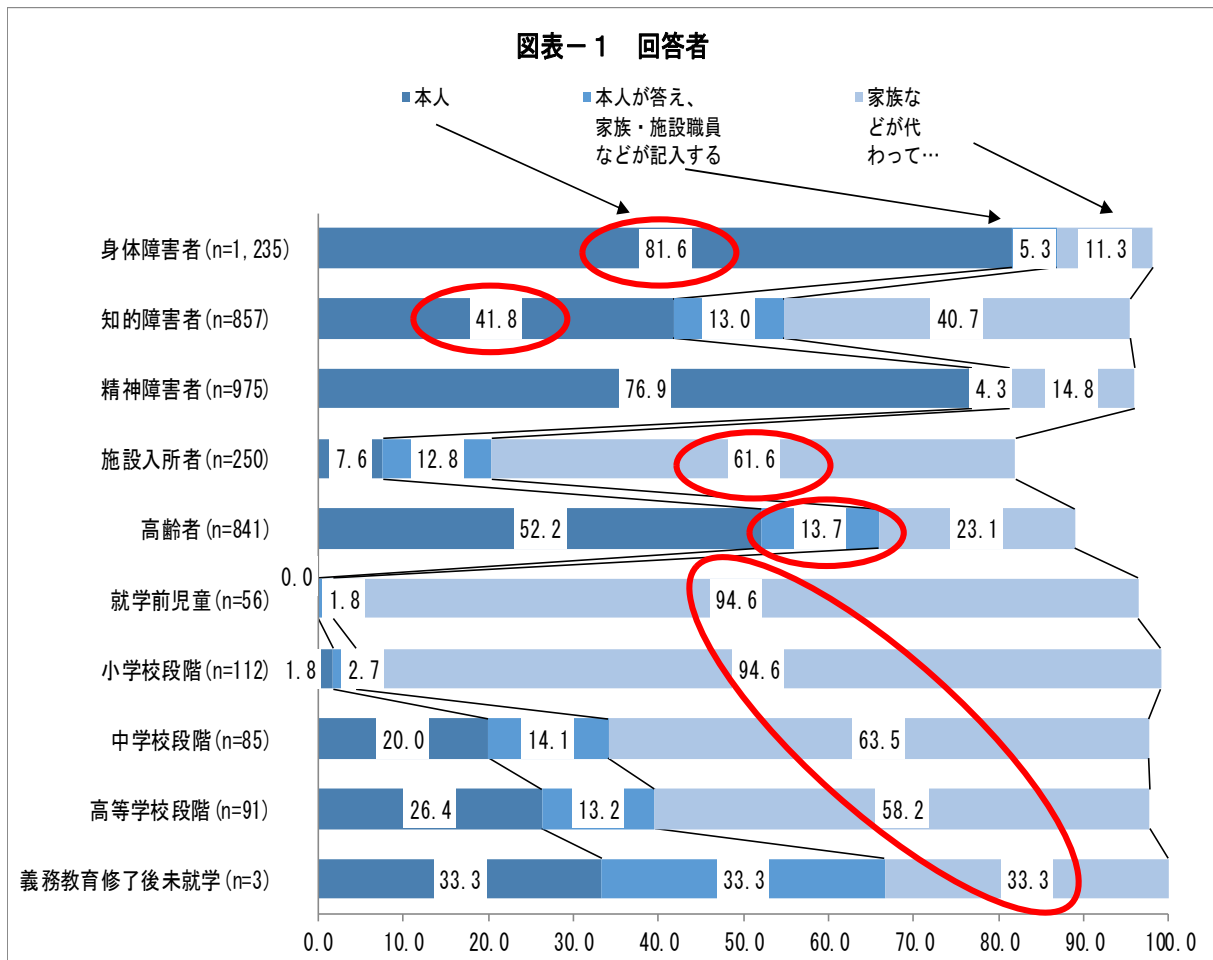
「本人」「本人が答え、家族・施設職員などが記入する」「家族などが代わって答える」「施設職員が代わって答える」「その他」の5項目とした。

「本人」では、「身体障害者」が81.6%と最も高く、次に「精神障害者」が76.9%である。

「本人が答え、家族・施設職員などが記入する」では、「高齢者」が13.7%と最も高い。

「家族などが代わって答える」では、「障害児（就学前児童）」と「小学校段階」がともに94.6%と最も高く、次に「中学校段階」が63.5%である。また「施設入所者」も61.6%である。

「その他」では、成年後見人・保佐人の回答があった。



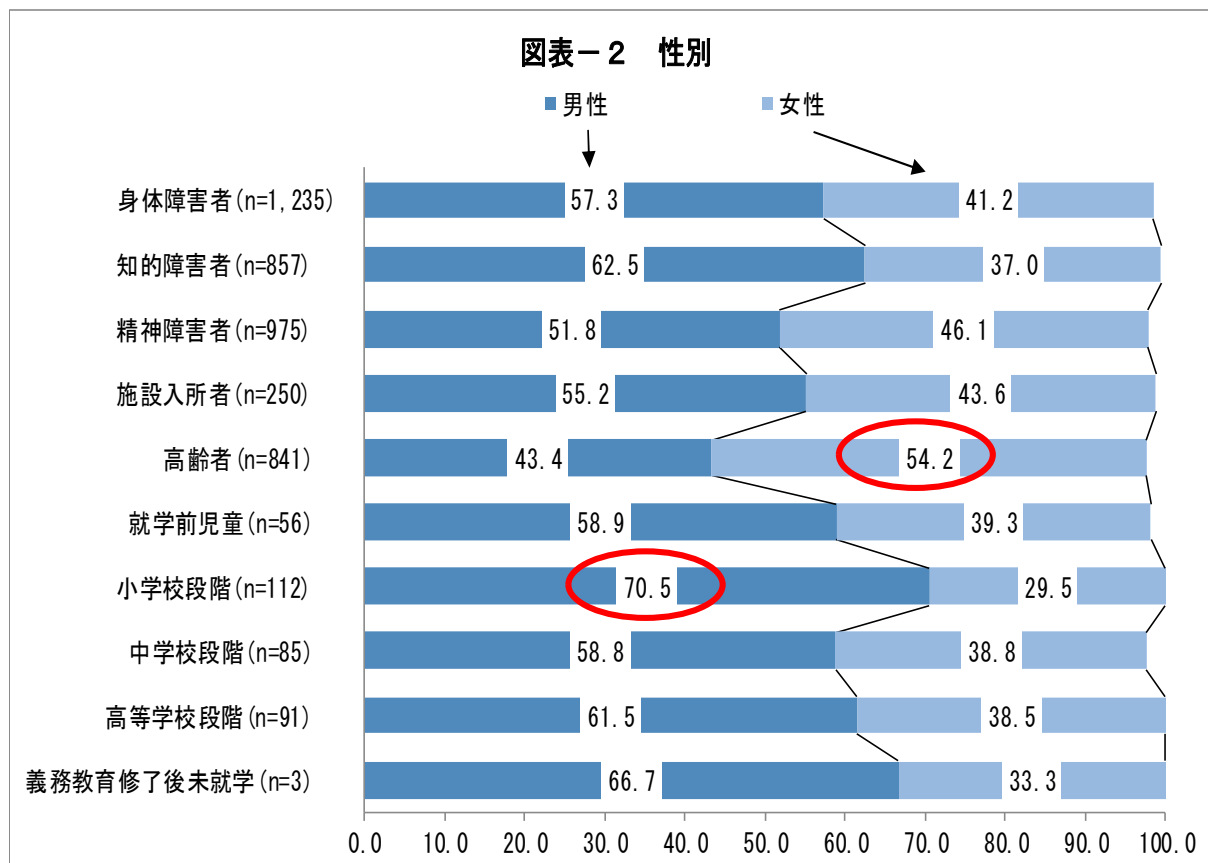
※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

(2) 性別

性別について尋ねた。

「男性」（義務教育修了後未就学を除く）では、「小学校段階」が70.5%と最も高く、次に「知的障害者」が62.5%、「高等学校段階」が61.5%である。

「女性」では、「高齢者」が54.2%と最も高く、次に「精神障害者」が46.1%、「施設入所者」が43.6%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

(3) 年齢

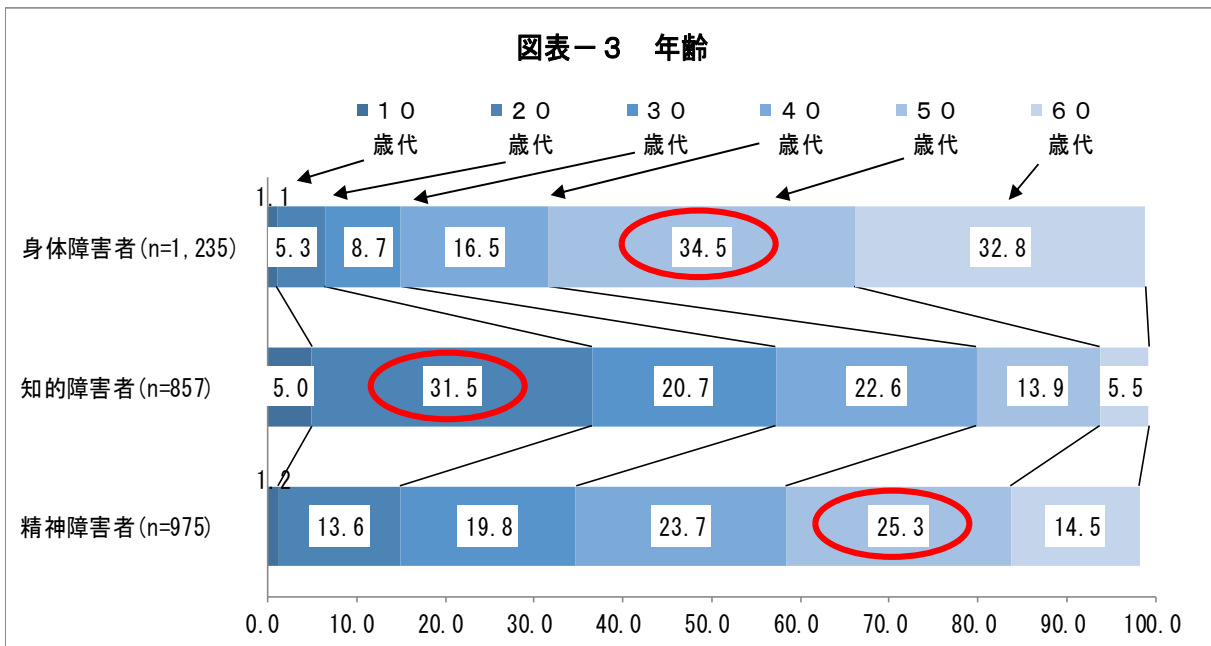
年齢について尋ねた。

①身体障害者・知的障害者・精神障害者の年齢

身体障害者では、「50歳代」が34.5%と最も高く、次に「60歳代」が32.8%である。

知的障害者では、「20歳代」が31.5%と最も高く、次に「40歳代」が22.6%である。

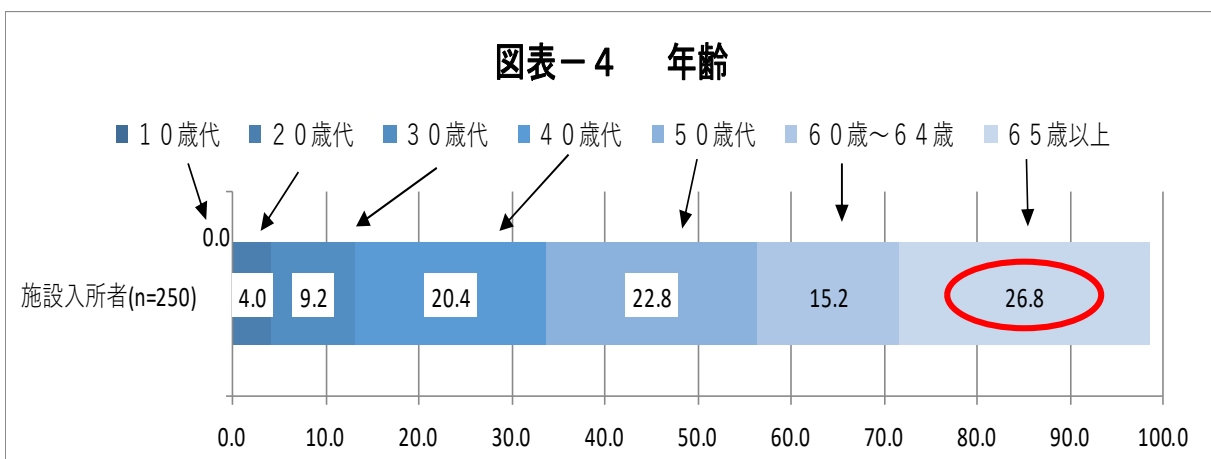
精神障害者では、「50歳代」が25.3%と最も高く、次に「40歳代」が23.7%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

②施設入所者の年齢

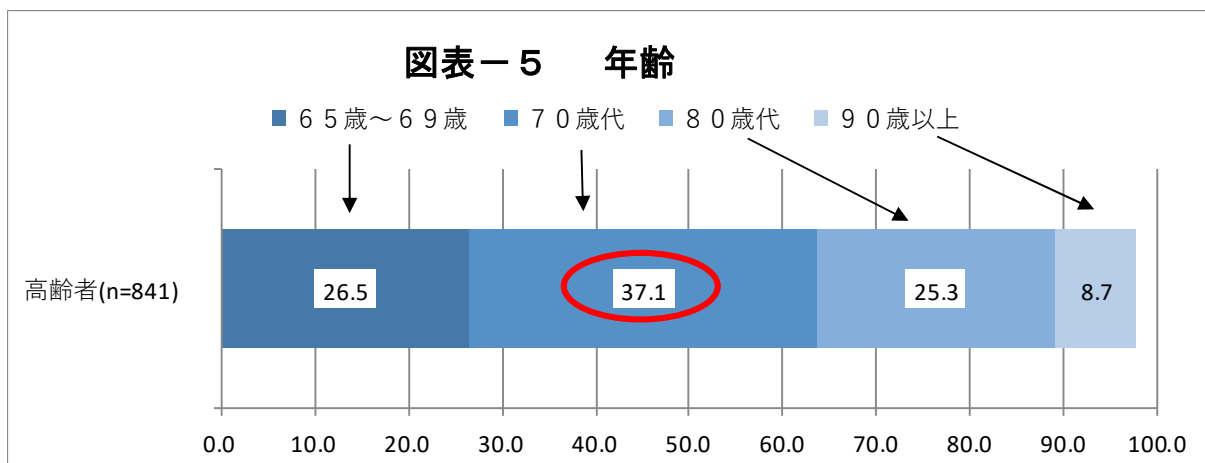
「65歳以上」が26.8%と最も高く、次に「50歳代」が22.8%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

③高齢者の年齢

「70歳代」が37.1%と最も高く、次に「65歳～69歳」が26.5%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

(4) 障害の種類・等級

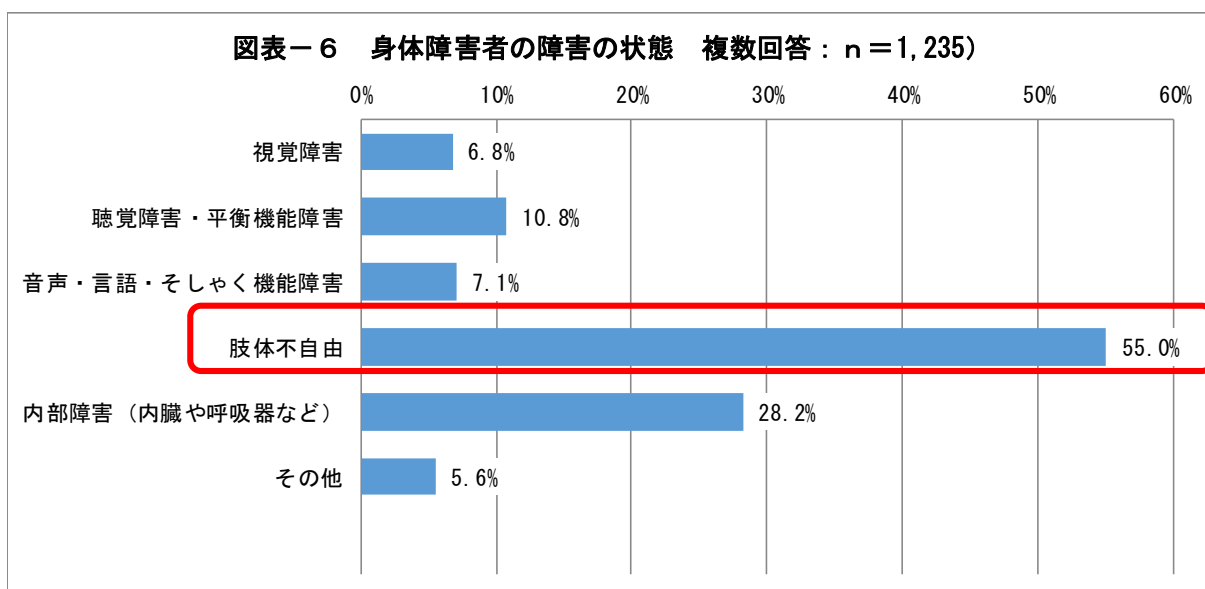
障害の種類と総合等級について尋ねた。

「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の3項目とした。

①身体障害者の障害の状態

複数回答として回答してもらった。

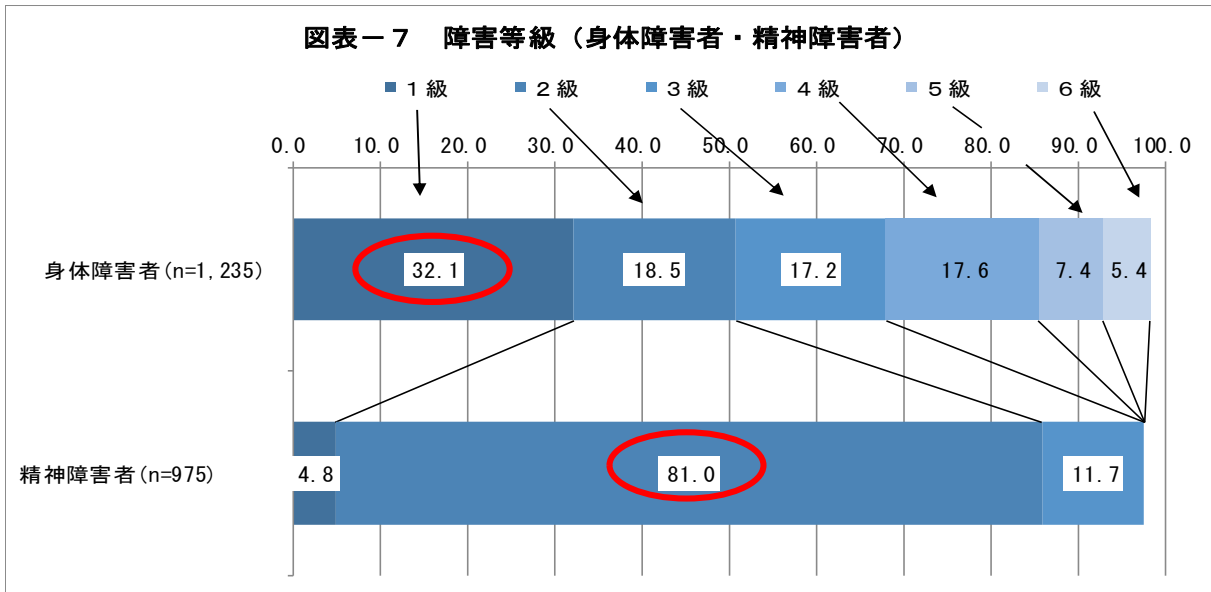
「肢体不自由」が55.0%と最も高く、次に「内部障害（内臓や呼吸器など）」が28.2%、「聴覚障害・平衡機能障害」が10.8%である。



②身体障害者と精神障害者の障害等級

身体障害者では、「1級」が32.1%と最も高く、次に「2級」が18.5%、「4級」が17.6%である。

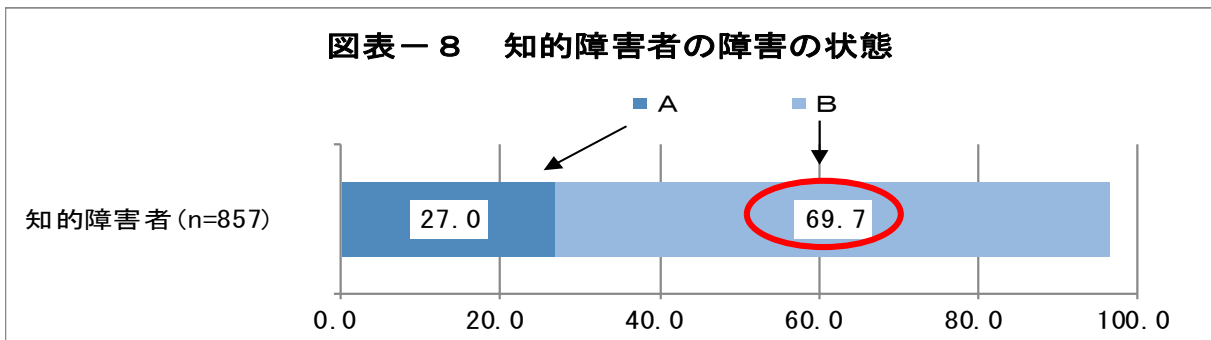
精神障害者では、「2級」が81.0%と最も高く、次に「3級」が11.7%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

③知的障害者の障害等級

知的障害者では、「B」が69.7%と最も高く、次に「A」が27.0%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

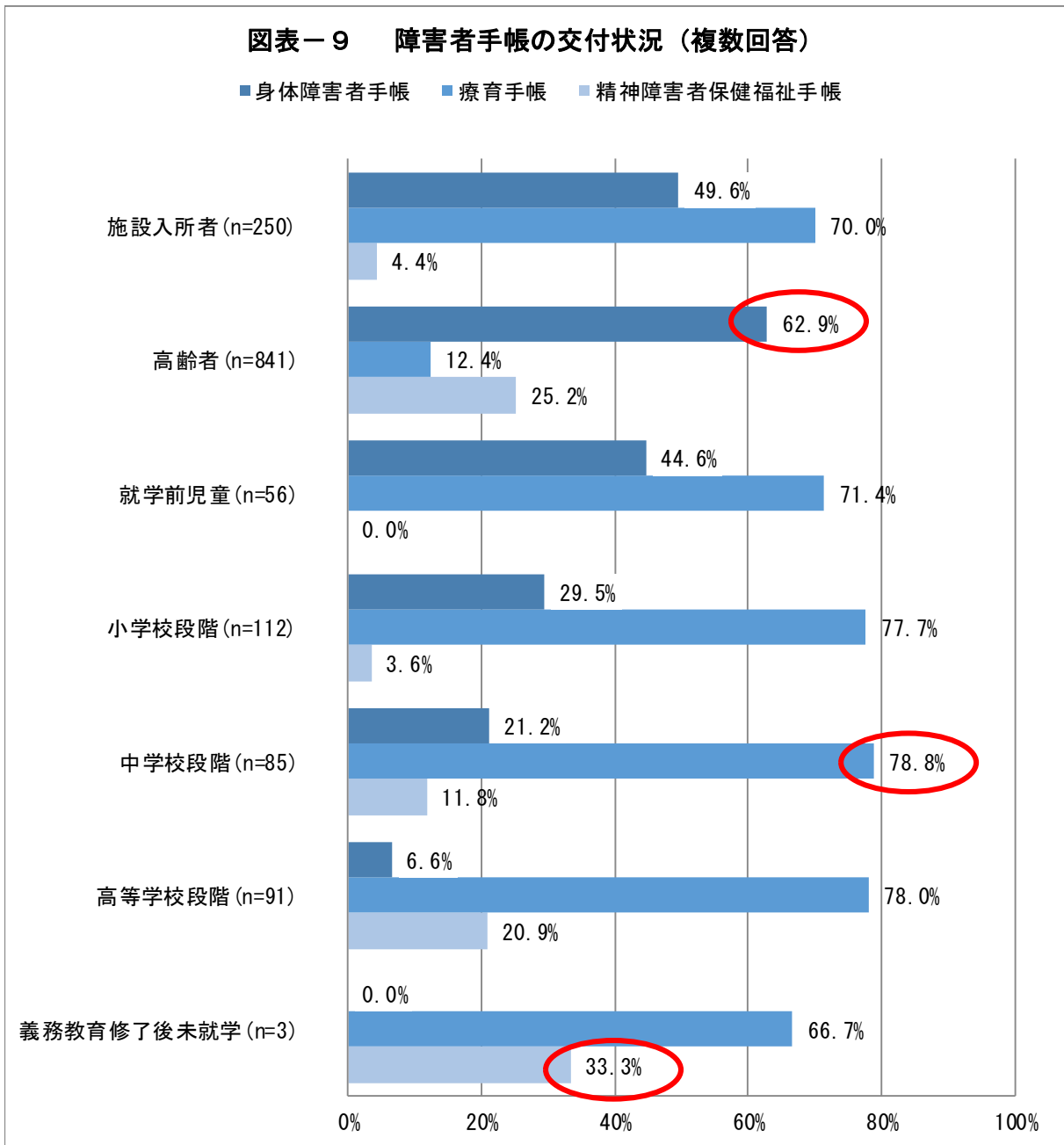
④施設入所者、高齢者・障害児の障害者手帳交付状況

複数回答として回答してもらった。

身体障害者手帳では、「高齢者」が62.9%と最も高く、次に「施設入所者」が49.6%である。

療育手帳では、「中学校段階」が78.8%と最も高く、次に「高等学校段階」が78.0%である。全般的に障害児の割合が高い。

精神障害者保健福祉手帳では、「義務教育修了後未就学」が33.3%と最も高く、次に「高齢者」が25.2%である。



5. 生活の場について

①住居形態

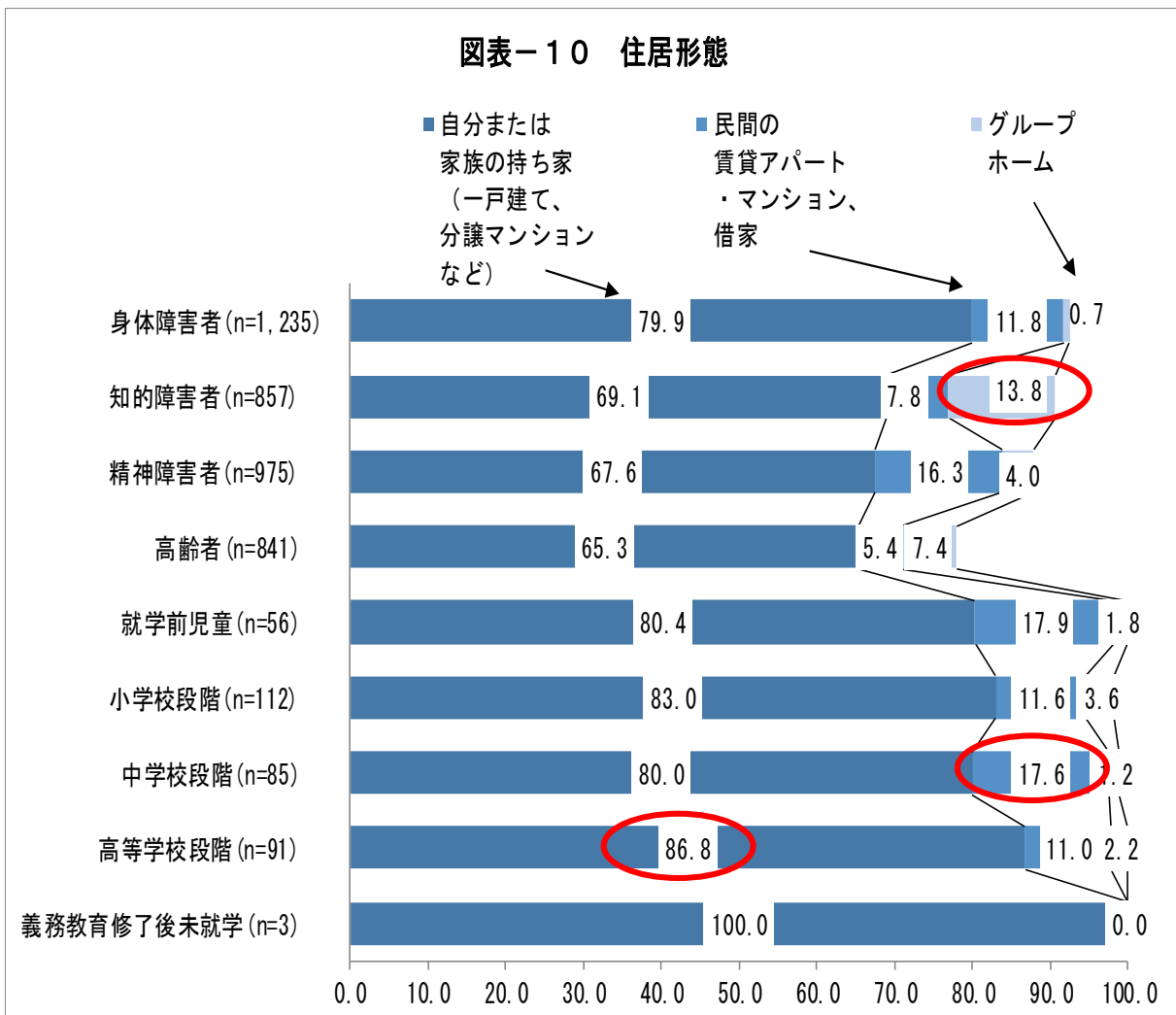
住居の形態を尋ねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」「民間の賃貸アパート・マンション、借家」「市営住宅、県営住宅」「グループホーム」「その他」の5項目とした。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」（義務教育修了後未就学を除く）では、「高等学校段階」が86.8%と最も高く、次に「小学校段階」が83.0%、「就学前児童」が80.4%である。

「民間の賃貸アパート・マンション、借家」では、「就学前児童」が17.9%と最も高く、次に「中学校段階」が17.6%、「精神障害者」が16.3%である。

「グループホーム」では、「知的障害者」が13.8%と最も高い。



※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

②世帯構成

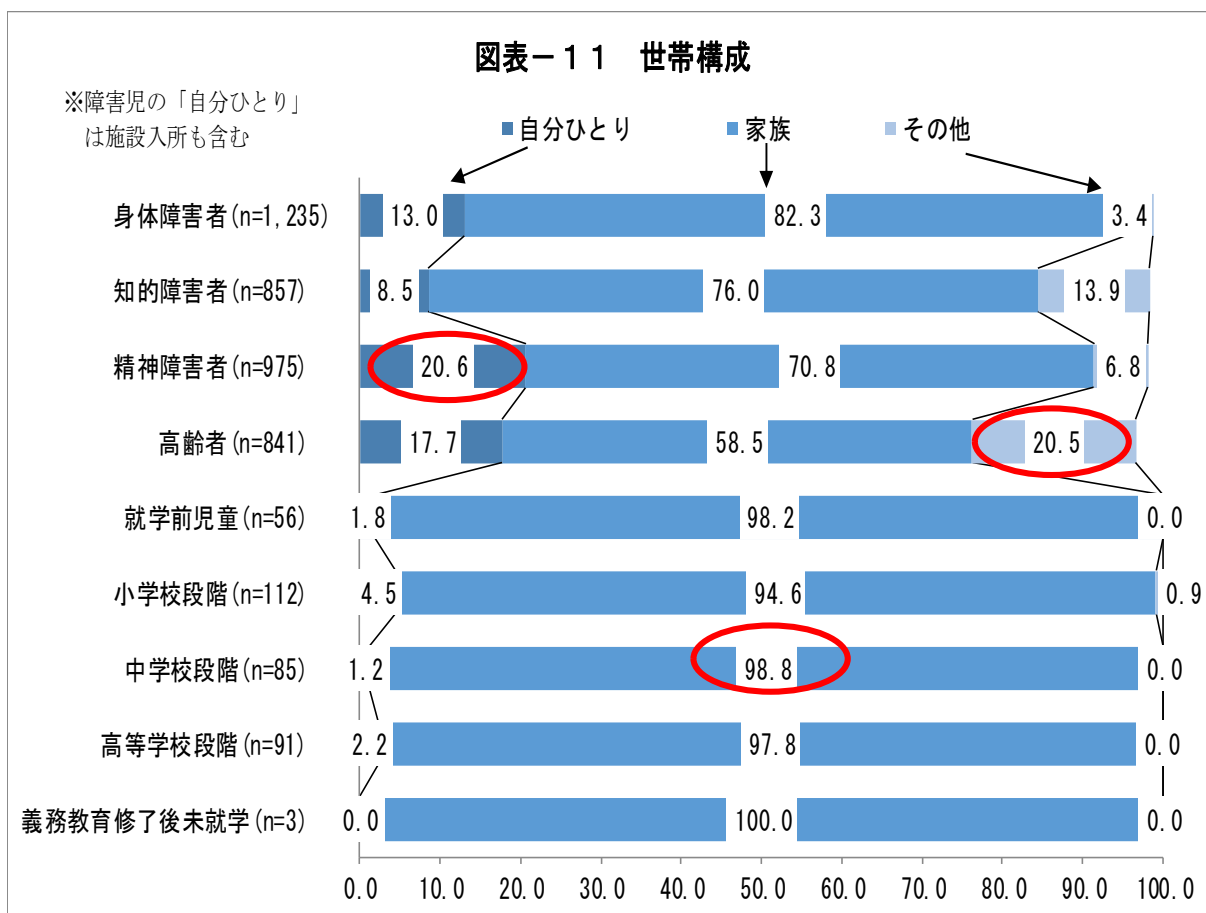
世帯構成を尋ねた。

「自分ひとり」「家族」「その他」の3項目とした。

「自分ひとり」では、「精神障害者」が20.6%と最も高く、次に「高齢者」が17.7%、「身体障害者」が13.0%である。

「家族」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「中学校段階」が98.8%と最も高く、次に「就学前児童」が98.2%、「高等学校段階」が97.8%である。また「身体障害者」も82.3%である。

「その他」では、「高齢者」が20.5%と最も高く、次に「知的障害者」が13.9%である。具体的には、病院や福祉施設が多かった。



※無回答は割合が低いため除いてある。

③昼間に利用したいサービスや支援

利用したいサービスや支援を尋ねた。

「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事援助を受けたい」「サービスや支援は必要ない」を含めて11項目を複数回答とした。

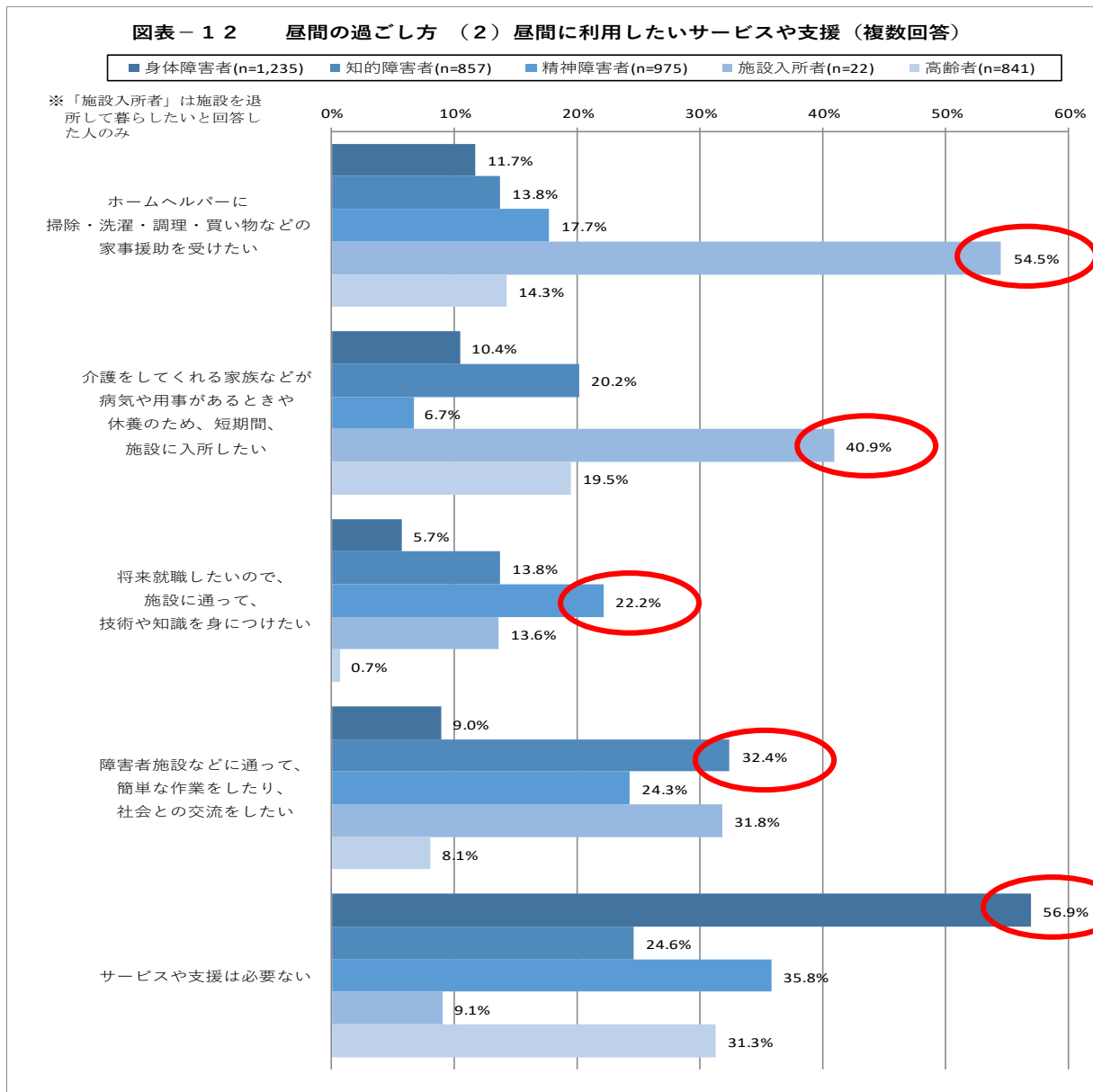
「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事援助を受けたい」では、「施設入所者」が54.5%と最も高い。

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」では、「施設入所者」が40.9%と最も高い。

「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」では、「精神障害者」が22.2%と最も高い。

「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」では、「知的障害者」が32.4%と最も高い。

「サービスや支援は必要ない」では、「身体障害者」が56.9%と最も高い。

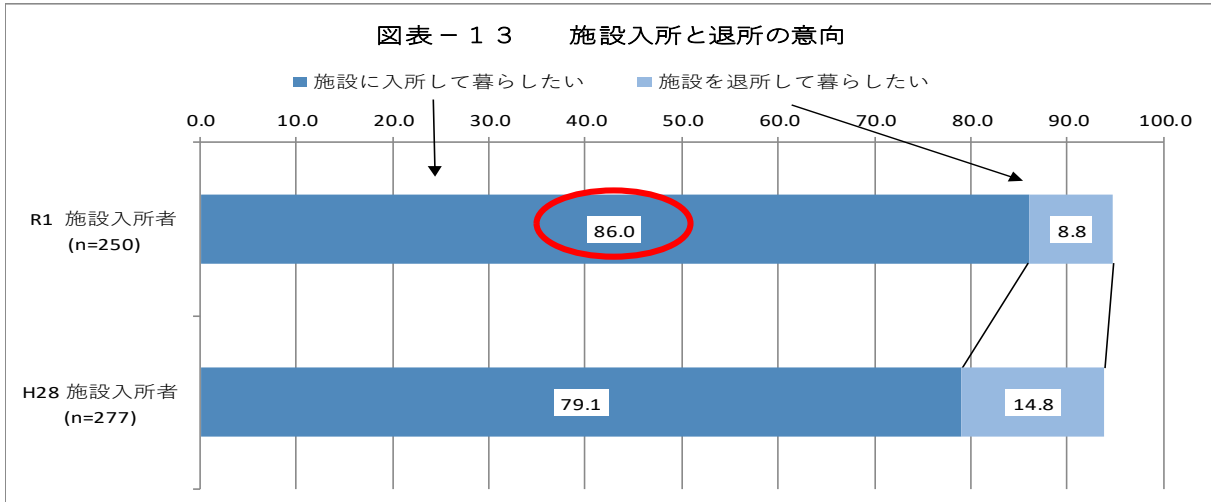


④施設入所と退所の意向（D票）

「施設に入所して暮らしたい」「施設を退所して暮らしたい」を尋ねた。

「施設に入所して暮らしたい」が86.0%と高く、「施設を退所して暮らしたい」が8.8%と低い。

H28と経年比較すると、「施設に入所して暮らしたい」は7ポイントほど高い。

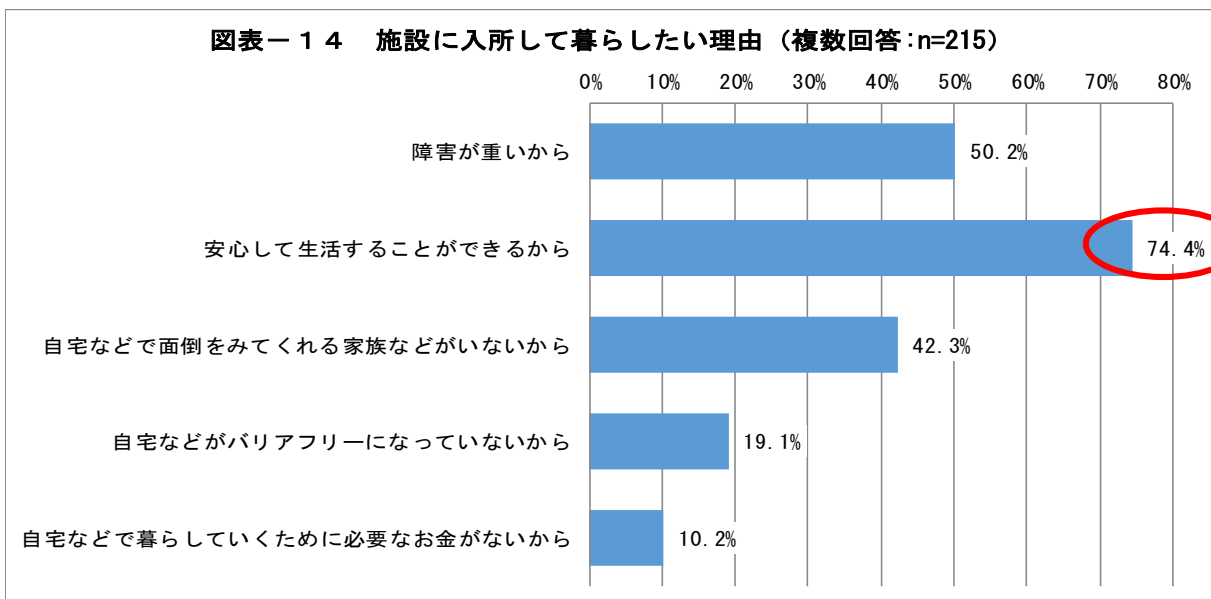


※無回答は割合が低いため除いてある。

⑤施設入所と退所の意向（D票）

「障害が重いから」「安心して生活することができるから」「自宅などで面倒をみてくれる家族などがいないから」を含めて7項目を複数回答とした。

「安心して生活することができるから」が74.4%と最も高く、次に「障害が重いから」が50.2%、「自宅などで面倒をみてくれる家族などがいないから」が42.3%である。



6. 文化・スポーツについて

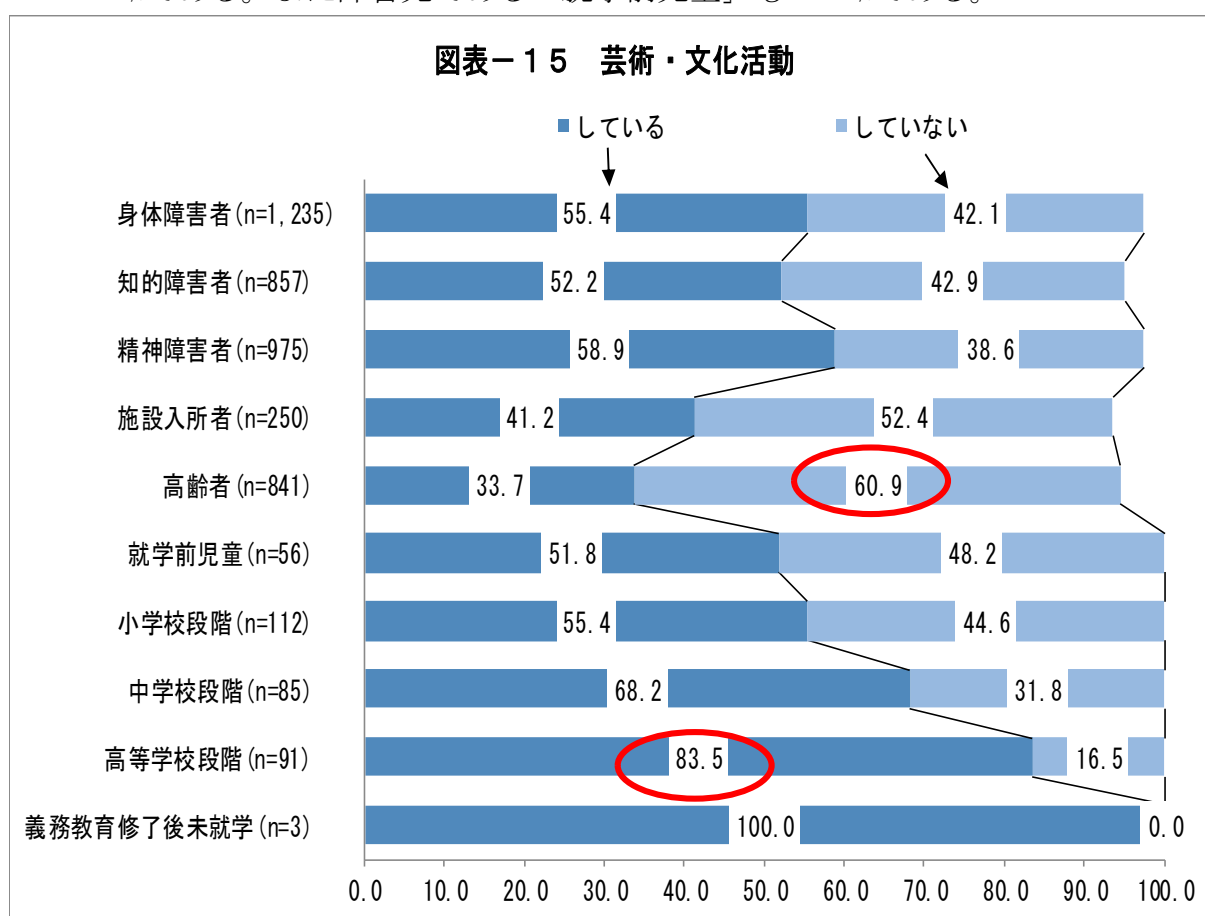
①芸術・文化活動

「している」「していない」を尋ねた。

「している」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「高等学校段階」が83.5%と最も高く、次に「中学校段階」が68.2%である。また「身体障害者」も55.4%である。障害児は年齢が上がるごとに活動を行っている。

「している」の具体的内容は、「音楽鑑賞」「映画鑑賞」が多く、障害者では「カラオケ」「絵画」「創作活動」が見られる。また障害児では、「学校の授業」が見られる。

「していない」では、「高齢者」が60.9%と最も高く、次に「施設入所者」が52.4%である。また障害児である「就学前児童」も48.2%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

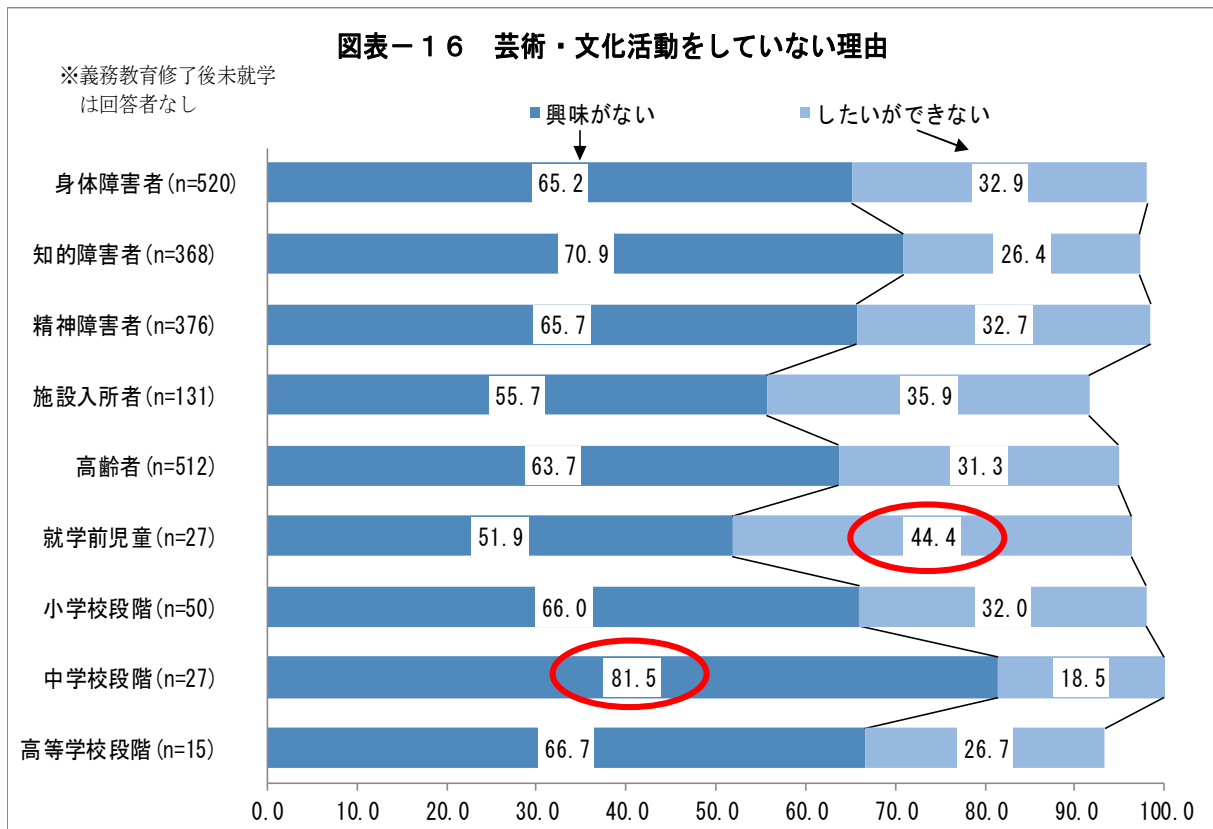
②芸術・文化活動をしていない理由

「興味がない」「したいができない」を尋ねた。

「興味がない」では、障害児である「中学校段階」が81.5%と最も高く、次に「知的障害者」が70.9%である。

「したいができない」では、障害児である「就学前児童」が44.4%と最も高く、次に「施設入所者」が35.9%、「身体障害者」が32.9%である。

「したいができない」の具体的内容は、「障害が重い」「体調不良」「一緒に行く人がいない」「余裕がない」「お金がない」「大勢のところ苦手」が多く、障害者では「障害が重い」「体調不良」が見られる。また障害児では、「理解ができない」「迷惑をかける」が見られる。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いいため除いてある。

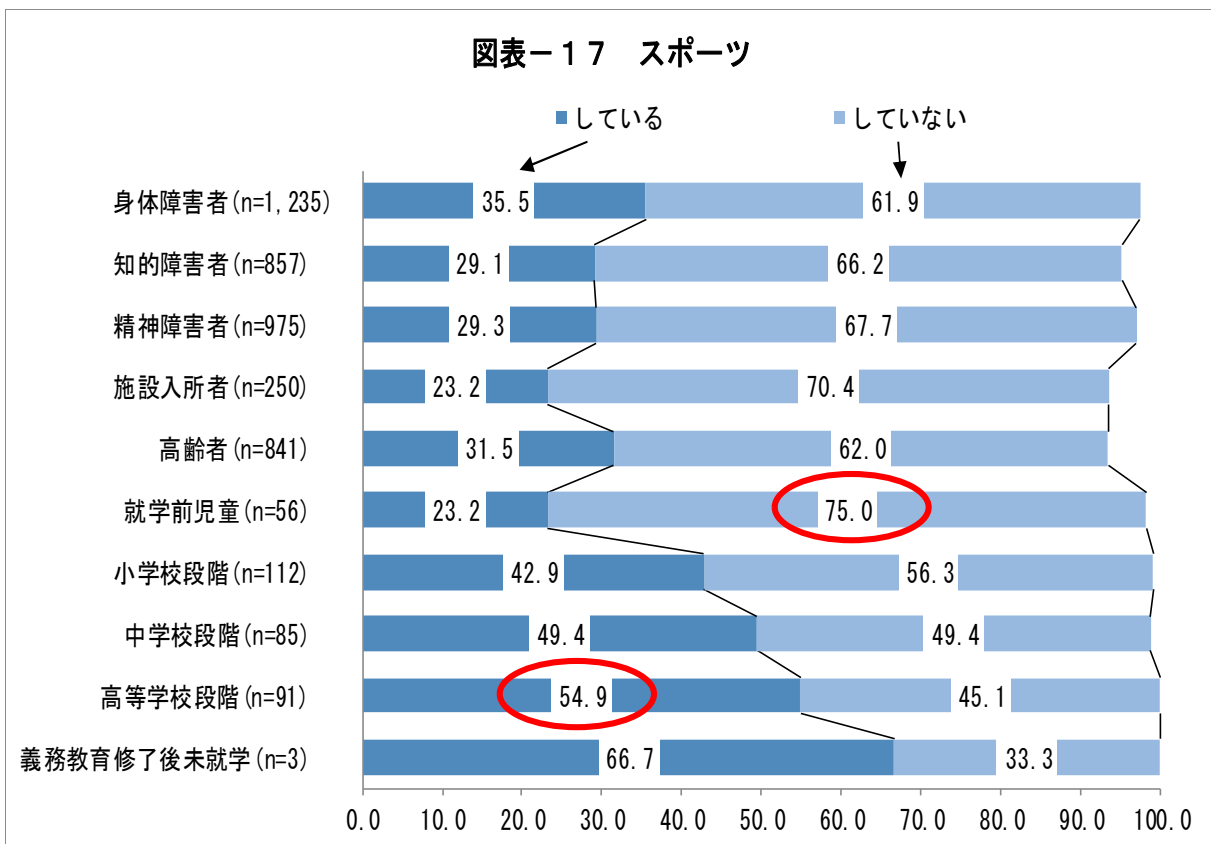
③スポーツ

「している」「していない」を尋ねた。

「している」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「高等学校段階」が54.9%と最も高く、次に「中学校段階」が49.4%である。また「身体障害者」も35.5%である。障害児は年齢が上がるごとに活動を行っている。

「している」の具体的内容は、「スポーツ観戦」「スポーツ実践」が多く、障害者では「ジョギング・ウォーキング」「レクスポーツ」「筋力トレーニング」が見られる。また障害児では、「学校の授業」「水泳」「体操」が見られる。

「していない」では、障害児である「就学前児童」が75.0%と最も高く、次に「施設入所者」が70.4%である。また身体障害者、知的障害者、精神障害者、高齢者は、ともに60%以上である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

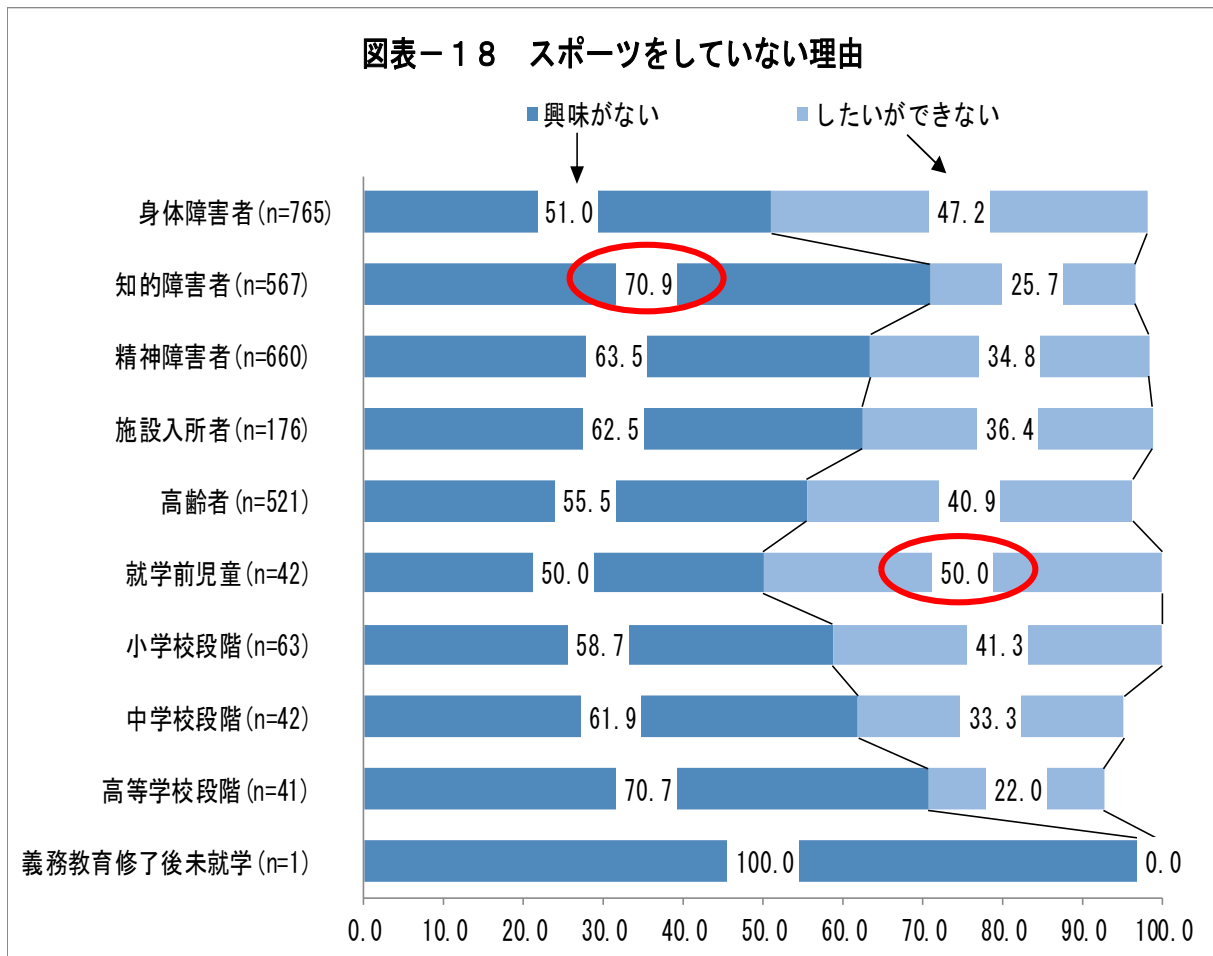
④スポーツをしていない理由

「興味がない」「したいができない」を尋ねた。

「興味がない」では、「知的障害者」が70.9%と最も高く、次に障害児である「高等学校段階」が70.7%である。

「したいができない」では、障害児である「就学前児童」が50.0%と最も高く、次に「身体障害者」が47.2%、「小学校段階」が41.3%である。

「したいができない」の具体的内容は、「障害が重い」「体調不良」「能力がない」「向いているスポーツがわからない」「開催場所がわからない」が多く、障害者では「気力がない」「時間が作れない」が見られる。また障害児では、「理解ができない」「場所が限られる」「体力がない」が見られる。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いいため除いてある。

7. 就労について

①就労状況

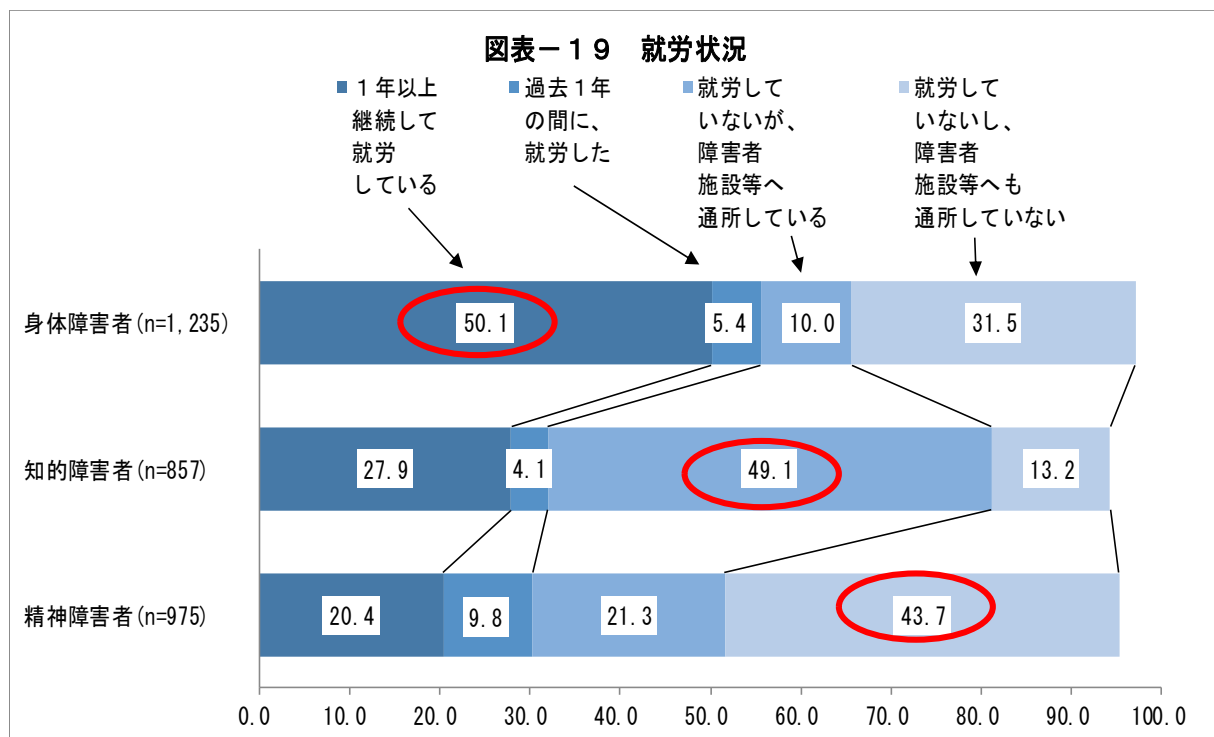
就労の状況を尋ねた。

「1年以上継続して就労している」「過去1年の間に、就労した」「就労していないが、障害者施設等へ通所している」「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」の4項目とした。

「1年以上継続して就労している」では、「身体障害者」が50.1%と最も高く、次に「知的障害者」が27.9%である。

「就労していないが、障害者施設等へ通所している」では、「知的障害者」が49.1%と最も高く、次に「精神障害者」が21.3%である。

「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」では、「精神障害者」が43.7%と最も高く、次に「身体障害者」が31.5%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

②就労継続できる理由

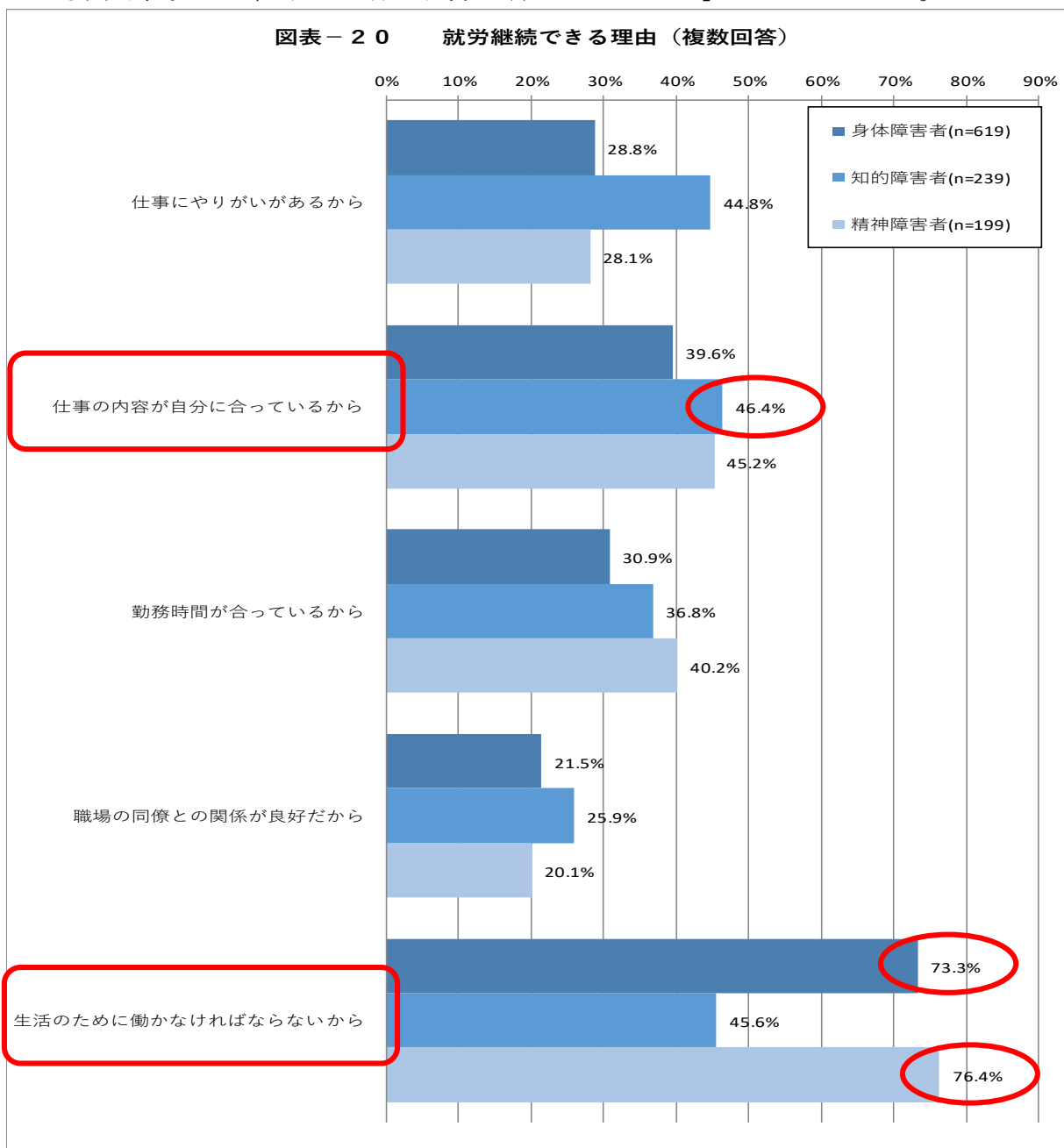
就労を継続できる理由を尋ねた。

「仕事にやりがいがあるから」「仕事の内容が自分に合っているから」「勤務時間が合っているから」「職場の同僚との関係が良好だから」「生活のために働かなければならないから」を含めて9項目を複数回答とした。

「身体障害者」では、「生活のために働かなければならないから」が73.3%と最も高く、次に「仕事の内容が自分に合っているから」が39.6%である。

「知的障害者」では、「仕事の内容が自分に合っているから」が46.4%と最も高く、次に「生活のために働かなければならないから」が45.6%である。

「精神障害者」では、「生活のために働かなければならないから」が76.4%と最も高く、次に「仕事の内容が自分に合っているから」が45.2%である。



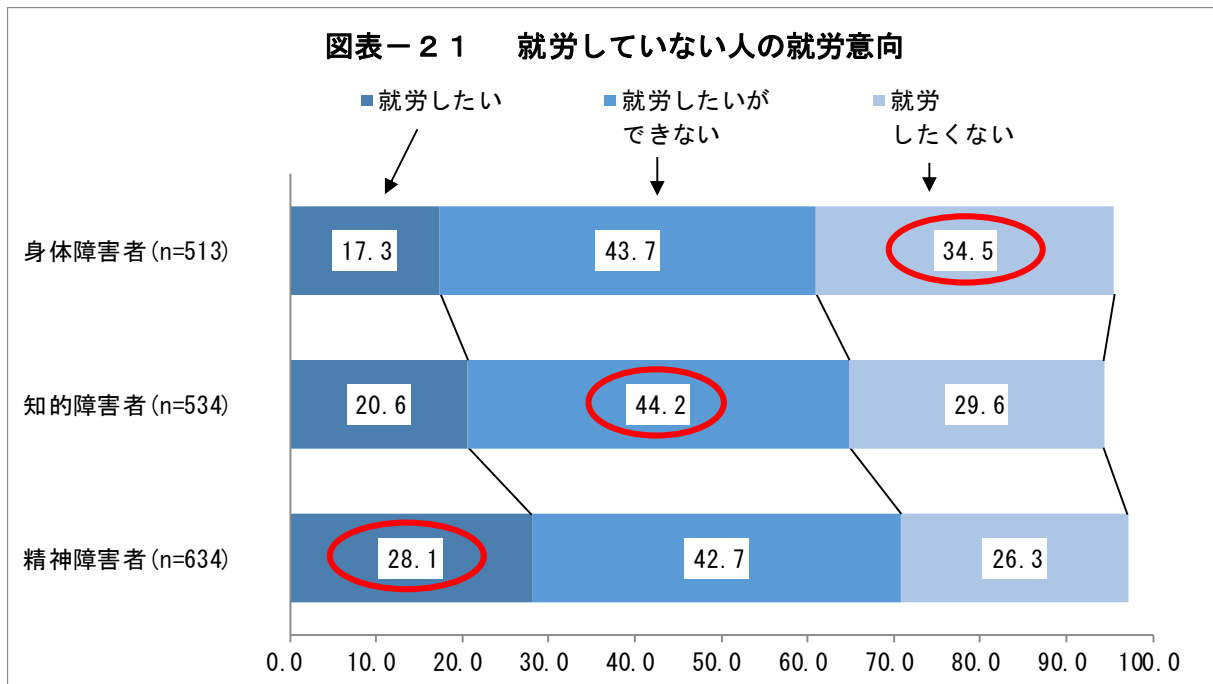
③就労していない人の就労意向

「就労したい」「就労したいができない」「就労したくない」を尋ねた。

「就労したい」では、「精神障害者」が28.1%と最も高く、次に「知的障害者」が20.6%である。

「就労したいができない」では、「知的障害者」が44.2%と最も高く、次に「身体障害者」が43.7%である。

「就労したくない」では、「身体障害者」が34.5%と最も高く、次に「知的障害者」が29.6%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

④就労するために必要なこと

就労するために必要なことを尋ねた。

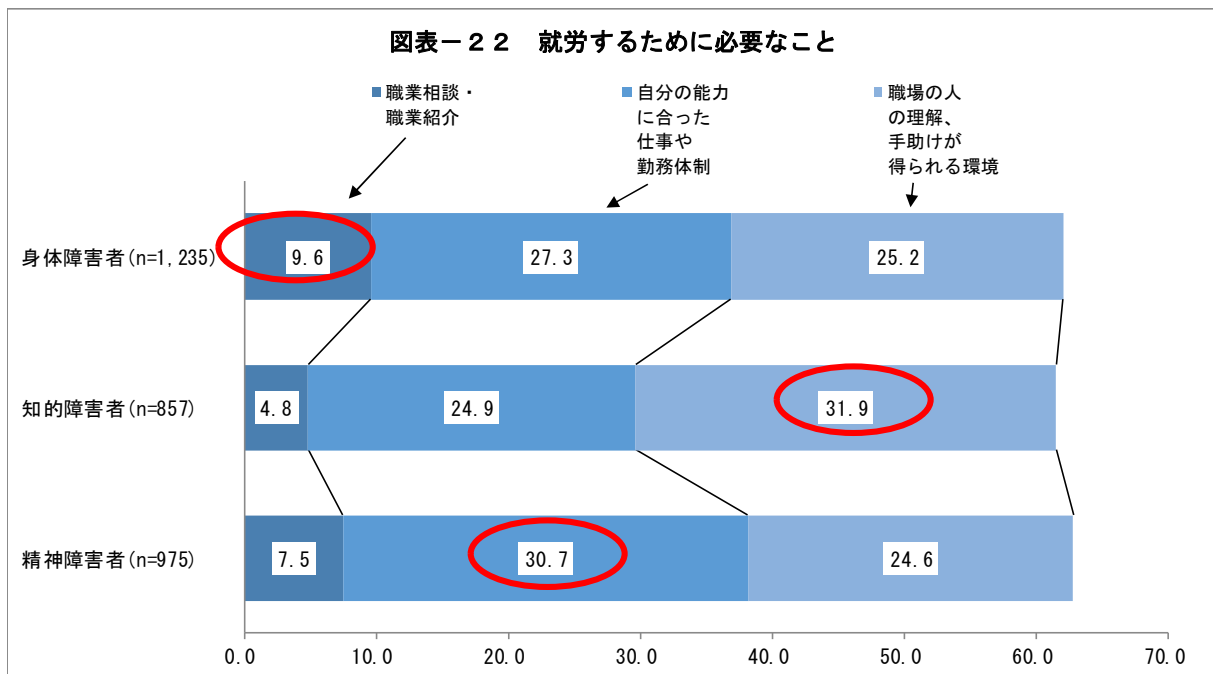
「職業相談・職業紹介」「自分の能力に合った仕事や勤務体制」「職場の人の理解、手助けが得られる環境」を含めて8項目とした。

「職業相談・職業紹介」では、「身体障害者」が9.6%と最も高く、次に「精神障害者」が7.5%である。

「自分の能力に合った仕事や勤務体制」では、「精神障害者」が30.7%と最も高く、次に「身体障害者」が27.3%である。

「職場の人の理解、手助けが得られる環境」では、「知的障害者」が31.9%と最も高く、次に「身体障害者」が25.2%である。

「その他」の具体的内容は、「自分の気持ち」「健康であること」「専門職の支援」が多い。



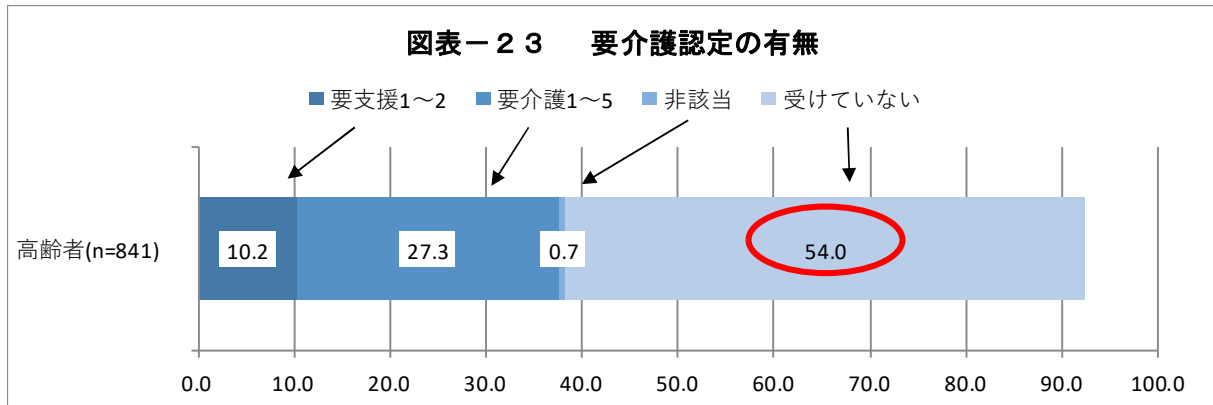
※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

8. 介護保険サービスの利用について（E票）

①要介護認定の有無

介護保険の要介護認定を尋ねた。「要支援」、「要介護」、「非該当」、「受けていない」に纏めた。

「要支援1～2」が10.2%、「要介護1～5」が27.3%、「非該当」が0.7%である。また、「受けていない」が54.0%と最も高い。

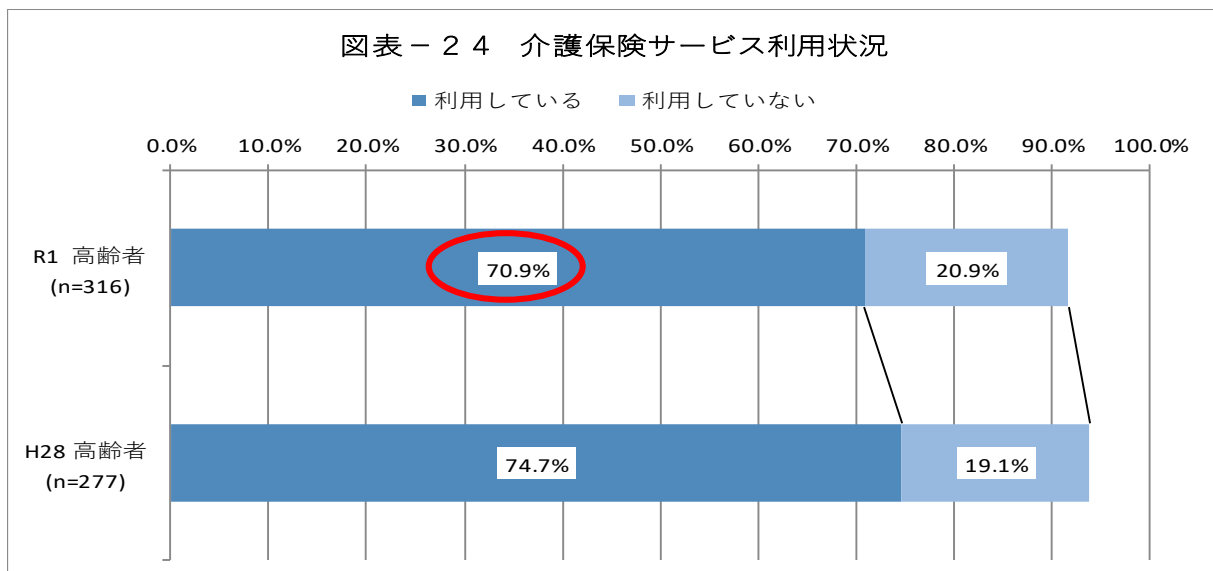


※無回答は割合が低いため除いてある。

②介護保険サービス利用状況

「利用している」「利用していない」を尋ねた。

「利用している」が70.9%と高く、「利用していない」が20.9%と低い。H28と経年比較すると、「利用している」は4ポイントほど低い。



※無回答は割合が低いため除いてある。

9. 入院・通院について

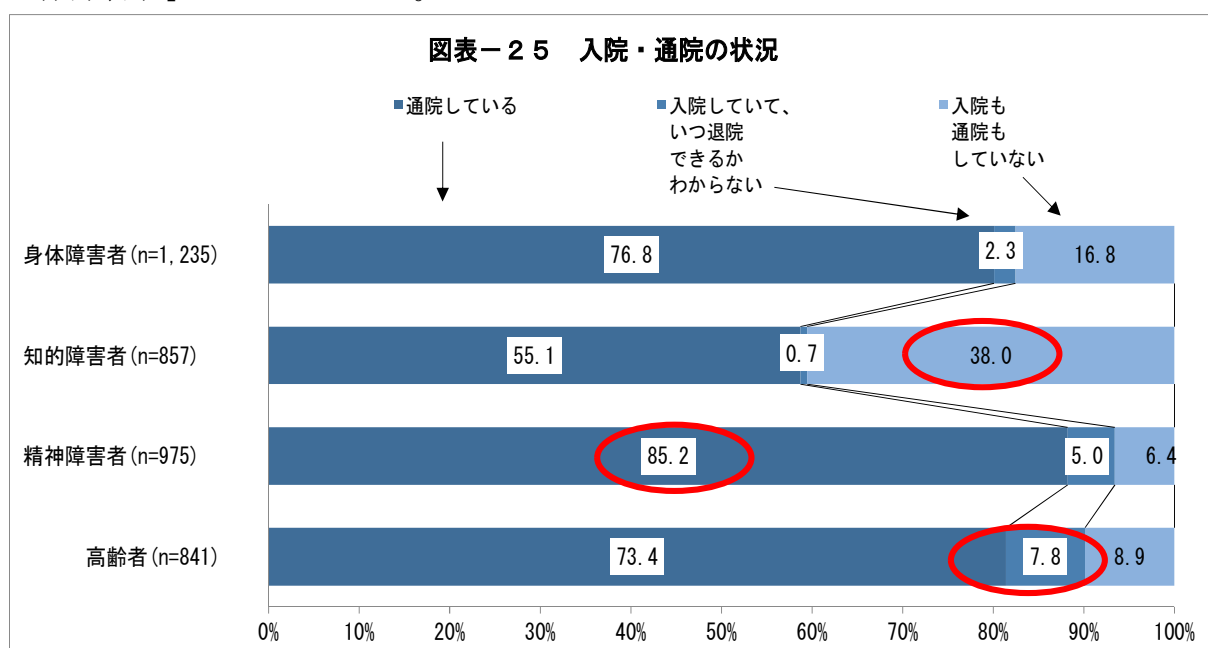
入院や通院について尋ねた。

「通院している」「入院していて、いつ退院できるかわからない」「入院しているが、体調や生活環境がよければ退院したい」「入院しているが、住む場所さえ見つければ、すぐにでも退院したい」「入院も通院もしていない」「その他」の6項目とした。

「通院している」では、「精神障害者」が85.2%と最も高く、次に「身体障害者」が76.8%である。

「入院していて、いつ退院できるかわからない」では、「高齢者」が7.8%と最も高く、次に「精神障害者」が5.0%である。

「入院も通院もしていない」では、「知的障害者」が38.0%と最も高く、次に「身体障害者」が16.8%である。



※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

10. 外出について

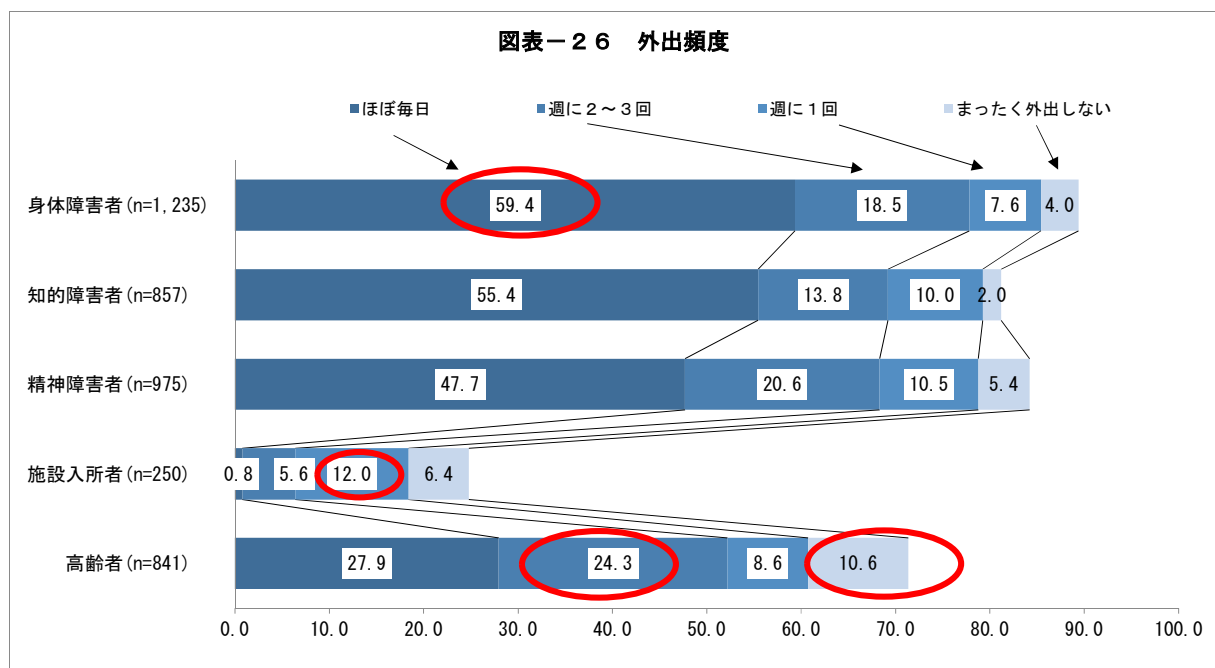
外出の頻度を尋ねた。「ほぼ毎日」「週に2～3回」「週に1回」「月に2～3回」「月に1回」「年に数回」「まったく外出しない」の7項目とした。

「ほぼ毎日」では、「身体障害者」が59.4%と最も高く、次に「知的障害者」が55.4%である。

「週に2～3回」では、「高齢者」が24.3%と最も高く、次に「精神障害者」が20.6%である。

「週に1回」では、「施設入所者」が12.0%と最も高く、次に「精神障害者」が10.5%である。

「まったく外出しない」では、「高齢者」が10.6%と最も高く、次に「精神障害者」が5.4%である。



※上記4項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

※施設入所者は、「年に数回」が33.6%と最も高く、次に「月に1回」が20.0%である。

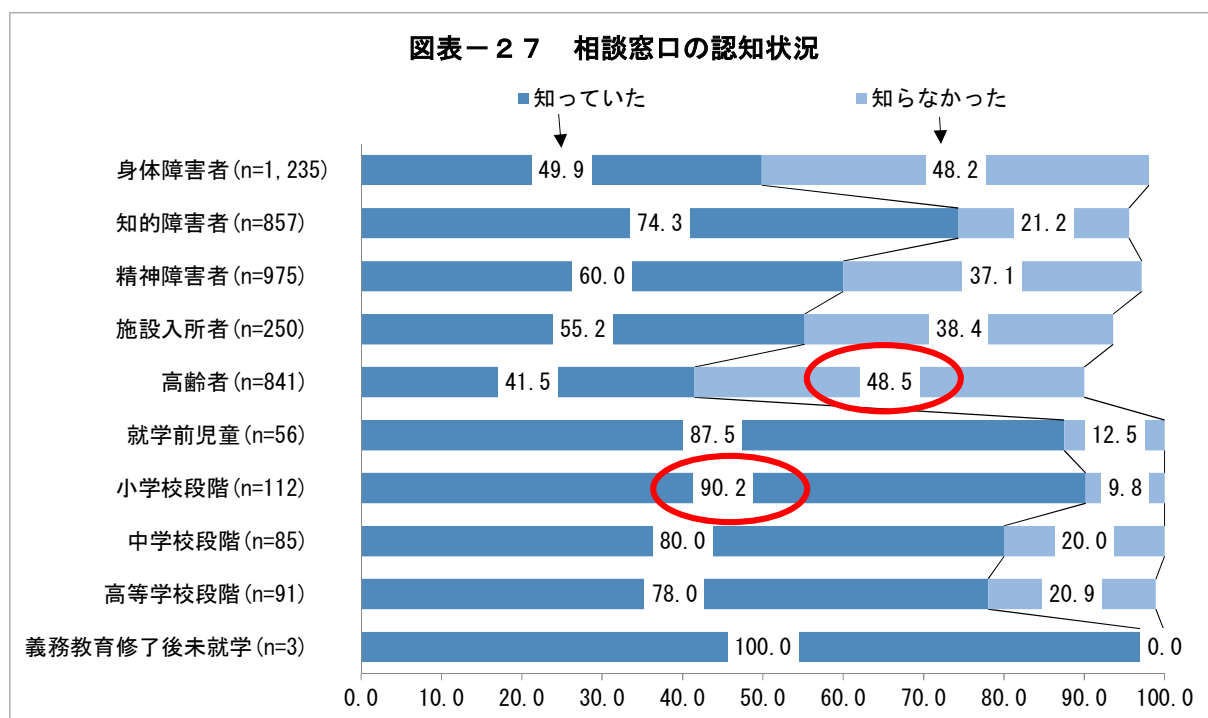
11. 相談窓口について

①相談窓口の認知状況

「知っていた」「知らなかった」を尋ねた。

「知っていた」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「小学校段階」が90.2%と最も高く、次に「就学前児童」が87.5%である。また「知的障害者」も74.3%である。

「していない」では、「高齢者」が48.5%と最も高く、次に「身体障害者」が48.2%である。また身体障害者、精神障害者、施設入所者は、ともに30%以上である。

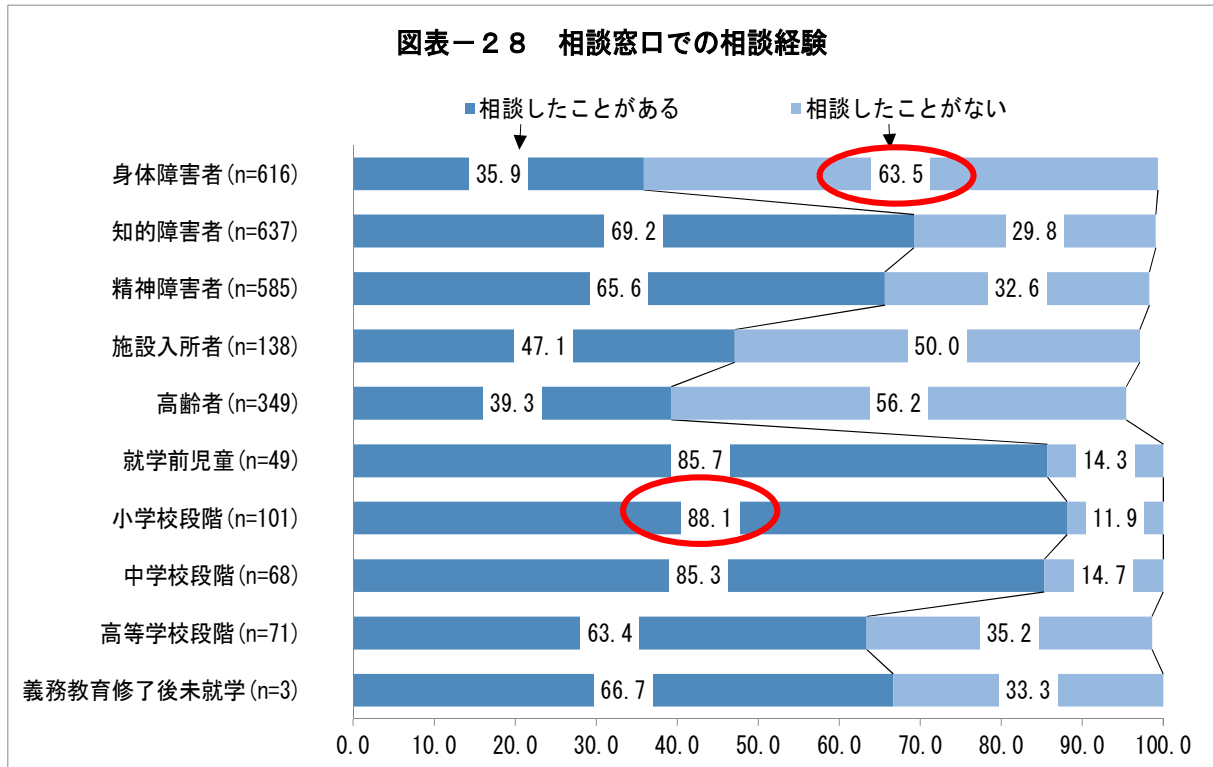


※無回答は割合が低いため除いてある。

②相談窓口での相談経験

「相談したことがある」「相談したことがない」を尋ねた。

「相談したことがある」では、障害児である「小学校段階」が88.1%と最も高く、次に「就学前児童」が85.7%である。また「知的障害者」も69.2%である。「相談したことがない」では、「身体障害者」が63.5%と最も高く、次に「高齢者」が56.2%、「施設入所者」が50.0%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

12. 災害時について

災害時に困ることや心配なことを尋ねた。「避難場所を知らない」「避難場所まで行けない」「緊急時に助けてくれる人がいない」「緊急時に情報を得る手段がない」「避難場所で必要なケアが受けられるか不安(生活上の介助や医療・服薬など)」「その他」の6項目とした。

「避難場所を知らない」では、「精神障害者」が18.2%と最も高く、次に「知的障害者」が15.3%である。

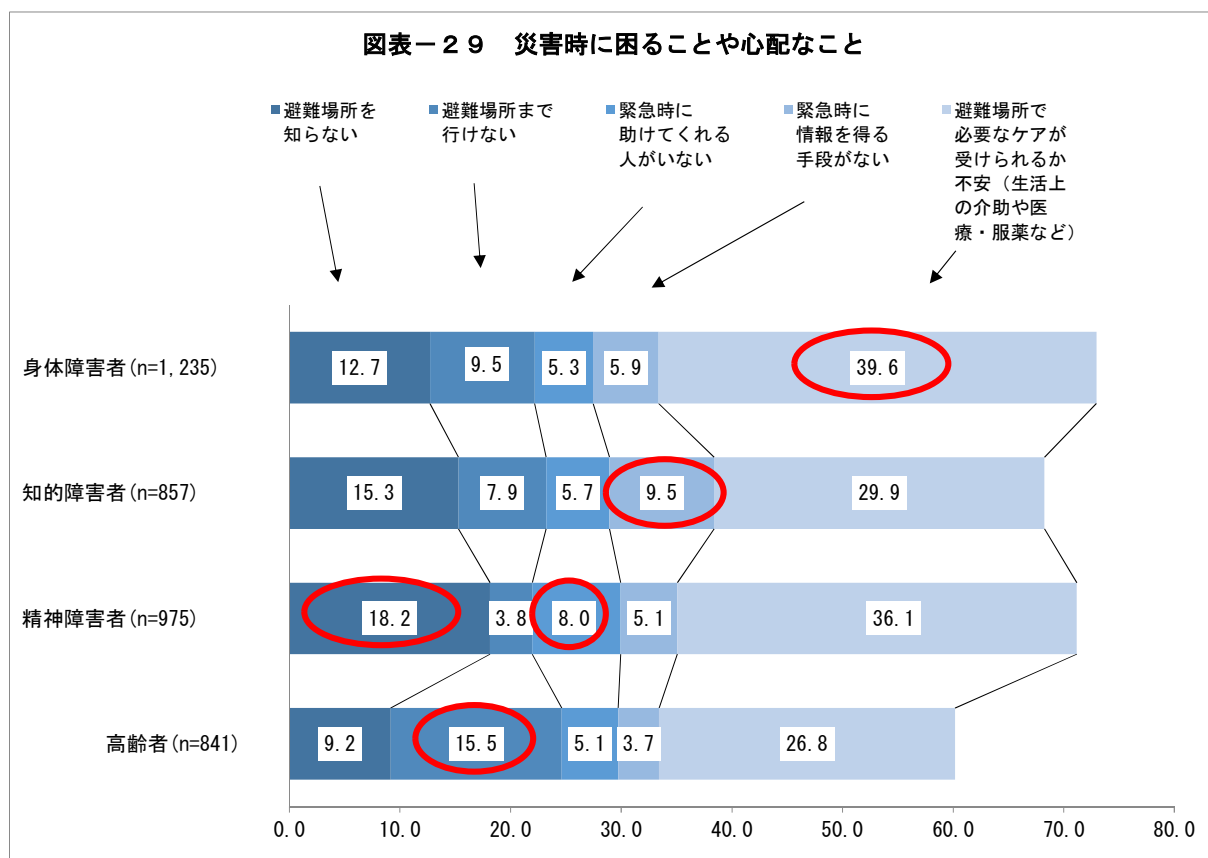
「避難場所まで行けない」では、「高齢者」が15.5%と最も高く、次に「身体障害者」が9.5%である。

「緊急時に助けてくれる人がいない」では、「精神障害者」が8.0%と最も高く、次に「知的障害者」が5.7%である。

「緊急時に情報を得る手段がない」では、「知的障害者」が9.5%と最も高く、次に「身体障害者」が5.9%である。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安(生活上の介助や医療・服薬など)」では、「身体障害者」が39.6%と最も高く、次に「精神障害者」が36.1%である。

「その他」の具体的内容は、「パニック」「環境の変化」「他の人との共同生活」「家族と会えるか不安」が多い。



※「その他」と無回答は割合が低いため除いてある。

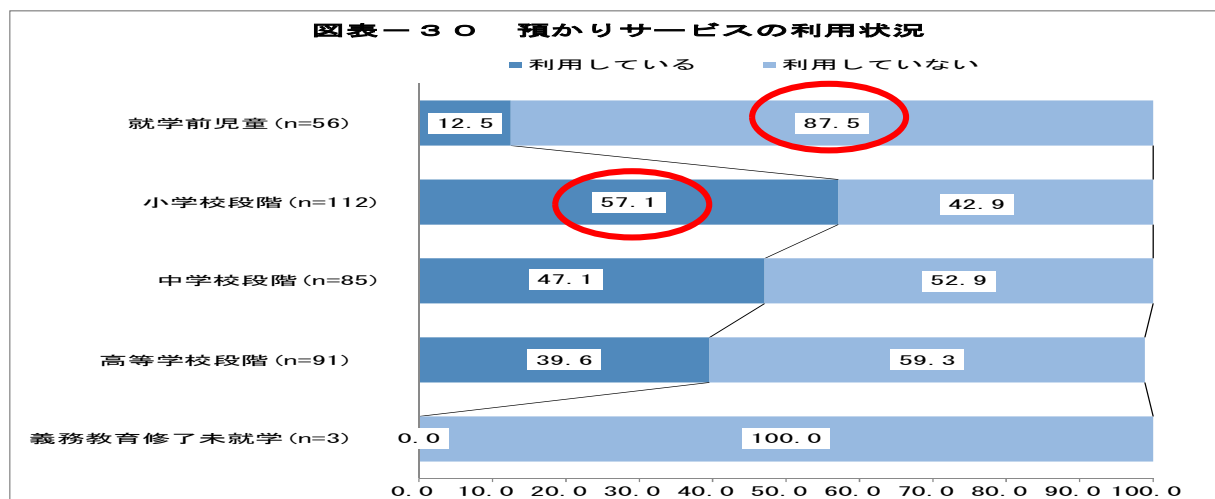
13. 預かりサービスについて (F票)

① 預かりサービスの利用状況

「利用している」「利用していない」を尋ねた。

「利用している」では、「小学校段階」が57.1%と最も高く、次に「中学校段階」が47.1%である。

「利用していない」では、「就学前児童」が87.5%と最も高く、次に「高等学校段階」が59.3%である。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いと除いてある。

② 預かりサービスの利用内容

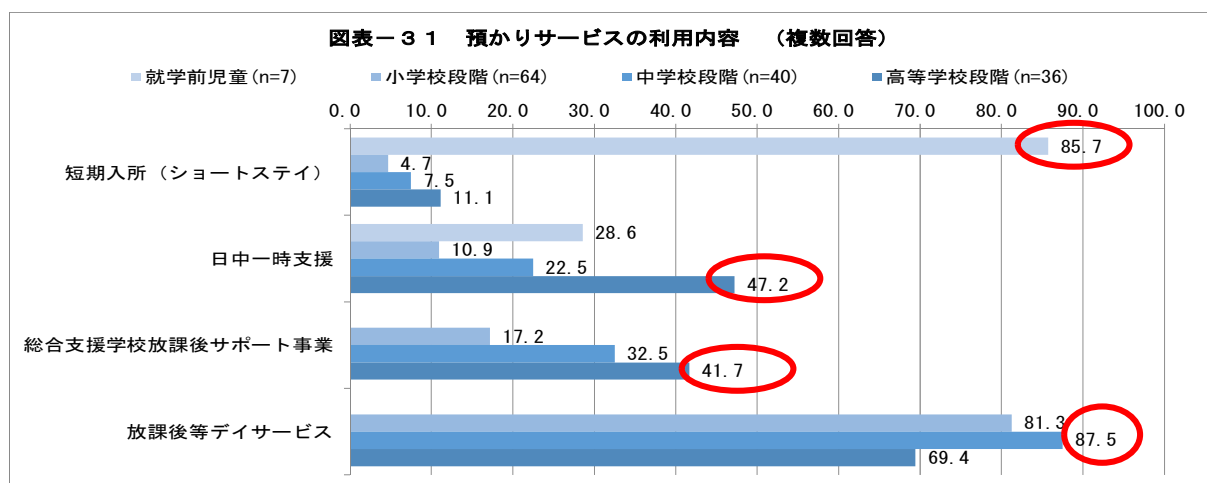
「短期入所 (ショートステイ)」「日中一時支援」「総合支援学校放課後サポート事業」「放課後等デイサービス」を含めて7項目を複数回答とした。

「短期入所 (ショートステイ)」では、「就学前児童」が85.7%と最も高い。

「日中一時支援」では、「高等学校段階」が47.2%と最も高い。

「総合支援学校放課後サポート事業」では、「高等学校段階」が41.7%と最も高い。

「放課後等デイサービス」では、「中学校段階」が81.3%と最も高く、次に「小学校段階」が87.5%である。



③ 預かりサービスの利用度

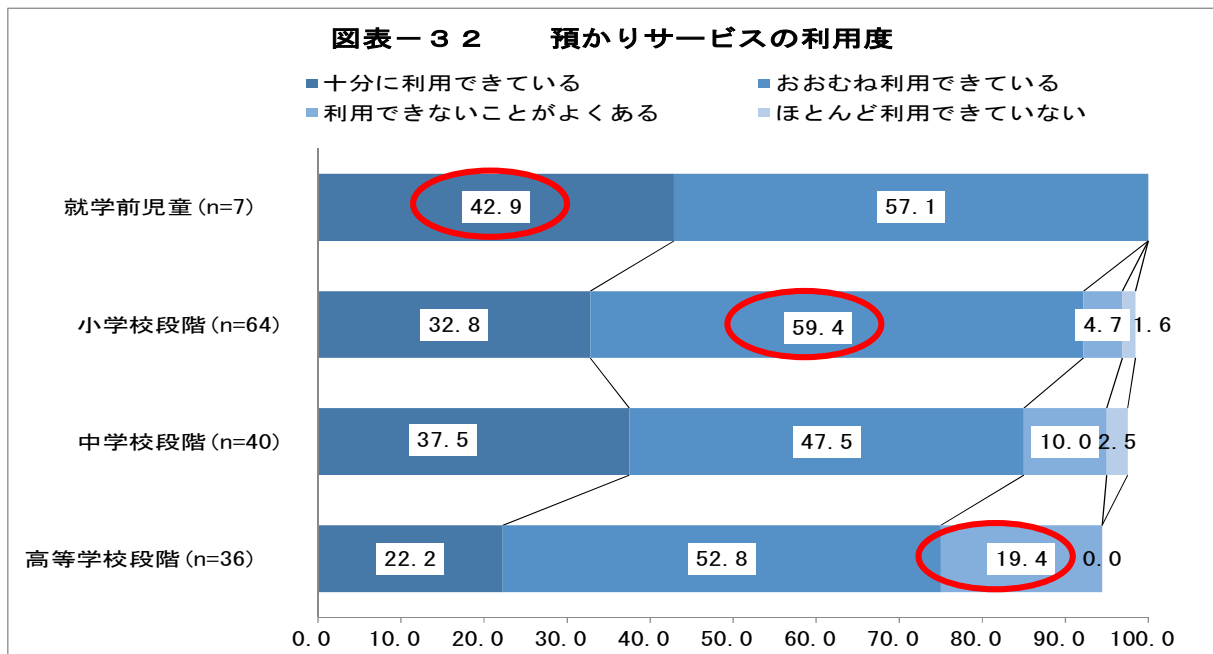
預かりサービスの利用状況を尋ねた。

「十分に利用できている」「おおむね利用できている」「利用できないことがよくある」「ほとんど利用できていない」の4項目とした。

「十分に利用できている」では、「就学前児童」が42.9%と最も高く、次に「中学校段階」が37.5%である。

「おおむね利用できている」では、「小学校段階」が59.4%と最も高く、次に「就学前児童」が57.1%である。

「利用できないことがよくある」では、「高等学校段階」が19.4%と最も高く、年齢が上がるごとに割合が高い。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いいため除いてある。

14. 障害のある人への差別について

障害を理由として差別されたと感じた場面を尋ねた。

「情報の取得や利用・意思疎通の場面」「買い物・外食の場面」「医療に関する場面」「雇用に関する場面」「差別を感じたことはない」を含めて11項目を複数回答とした。

「情報の取得や利用・意思疎通の場面」では、「精神障害者」が12.1%と最も高い。

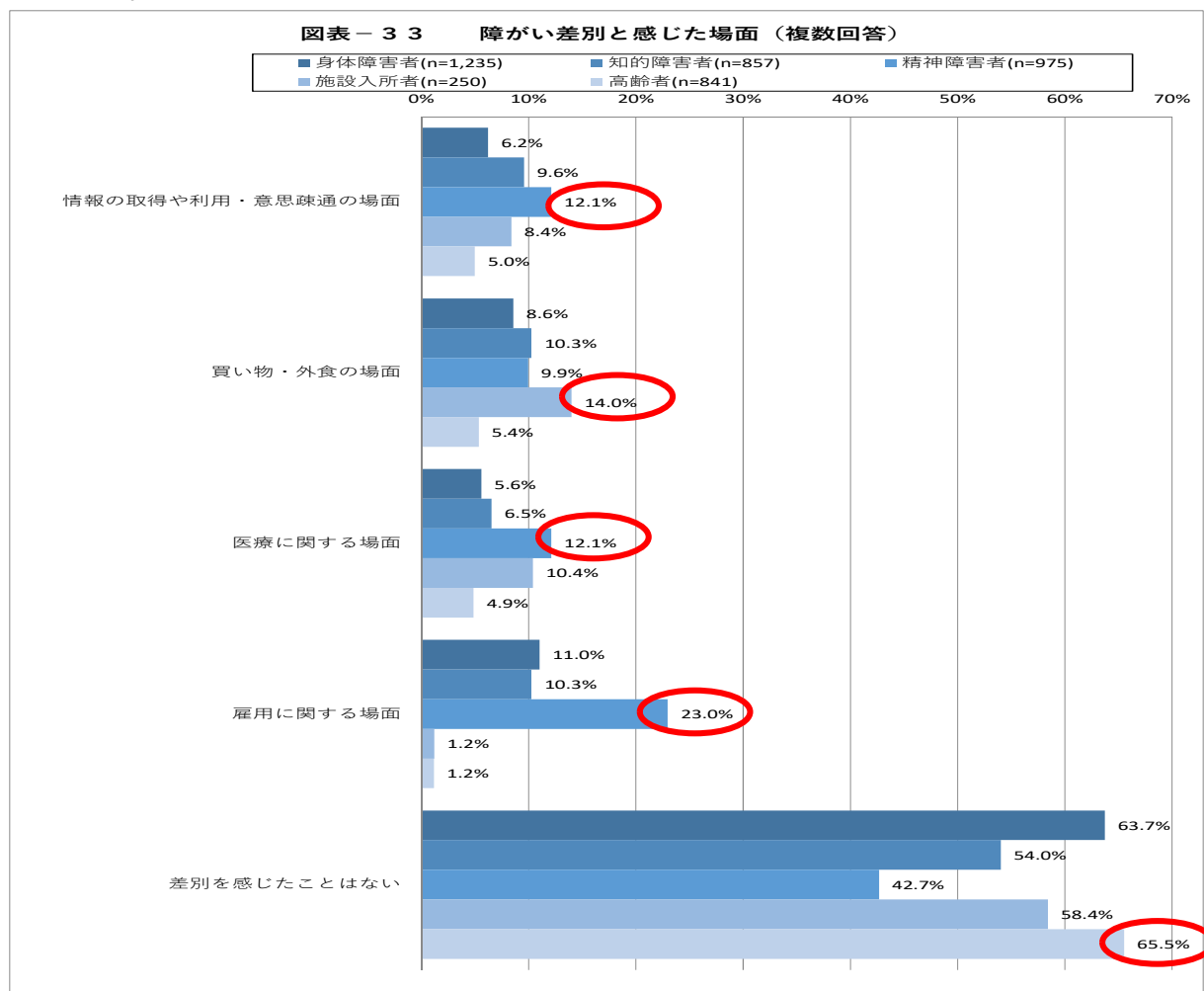
「買い物・外食の場面」では、「施設入所者」が14.0%と最も高い。

「医療に関する場面」では、「精神障害者」が12.1%と最も高い。

「雇用に関する場面」では、「精神障害者」が23.0%と最も高い。

「差別を感じたことはない」では、「高齢者」が65.5%と最も高く、次に「身体障害者」が63.7%である。

「その他」の具体的内容は、「他人の視線」「他人と異なった行動をしたとき」が多い。



障害児で見ると

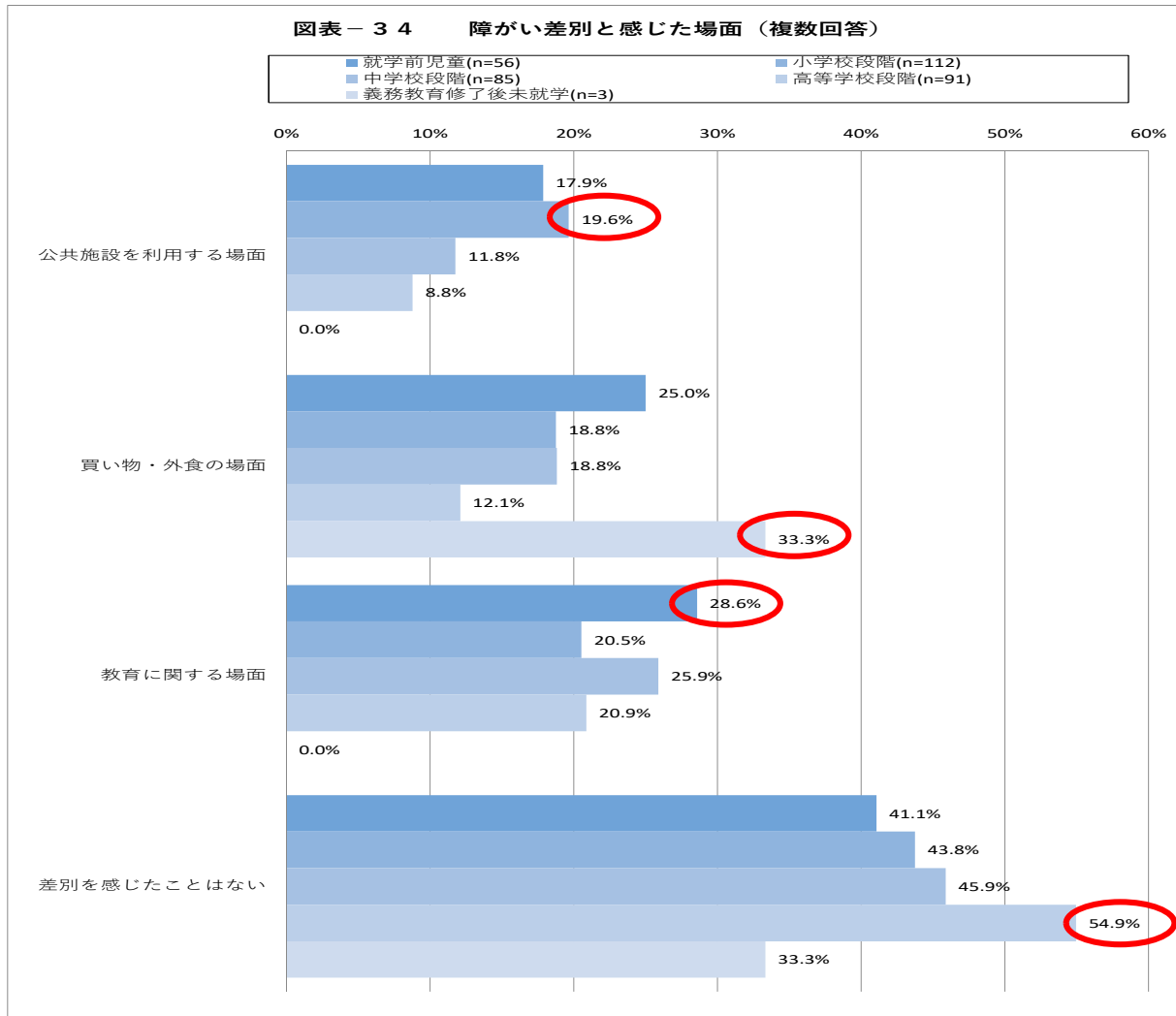
「公共施設を利用する場面」では、「小学校段階」が19.6%と最も高い。

「買い物・外食の場面」では、「義務教育修了未就学児」が33.3%と最も高い。

「教育に関する場面」では、「就学前児童」が28.6%と最も高い。

「差別を感じたことはない」では、「高等学校段階」が54.9%と最も高く、次に「中学校段階」が45.9%である。

「その他」の具体的内容は、「他人の視線」が多い。

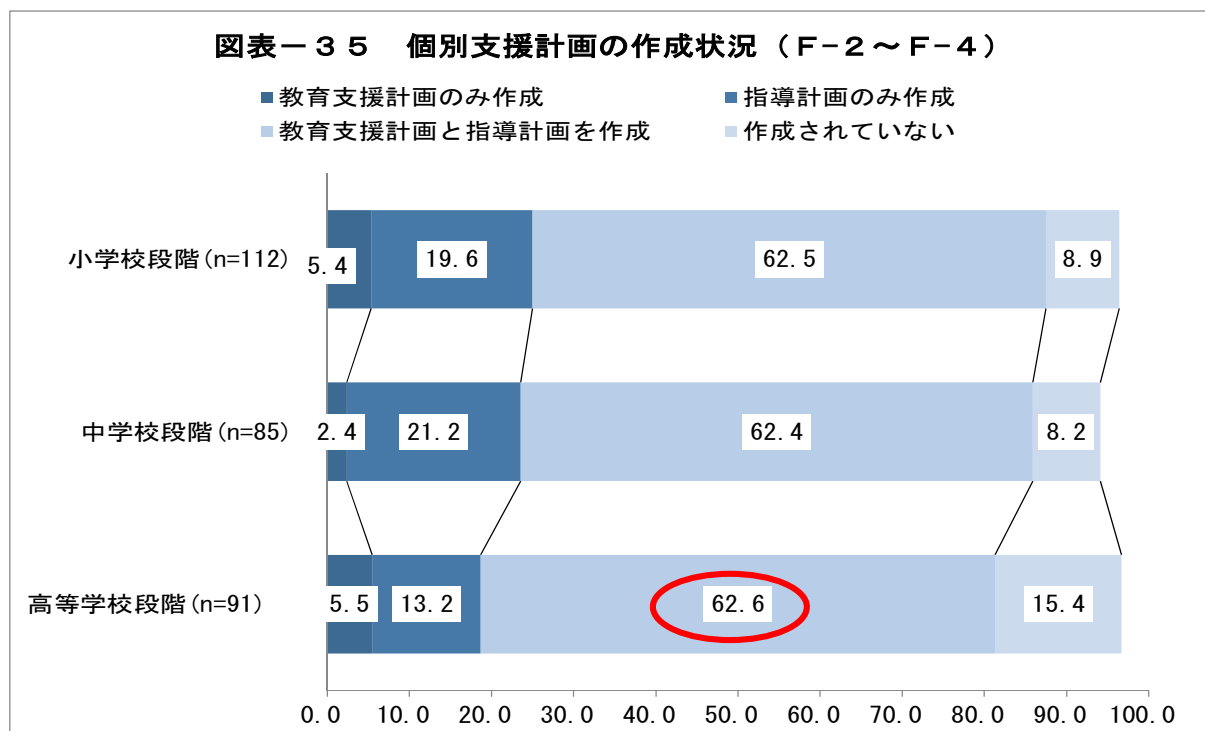


15. 個別の教育支援計画及び指導計画について

個別支援計画の作成状況について尋ねた。

「個別の教育支援計画」のみが作成されている」「個別の指導計画」のみが作成されている」「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」「作成されていない」の4項目とした。

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」では、「高等学校段階」が62.6%と最も高く、次に「小学校段階」が62.5%、「中学校段階」が62.4%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

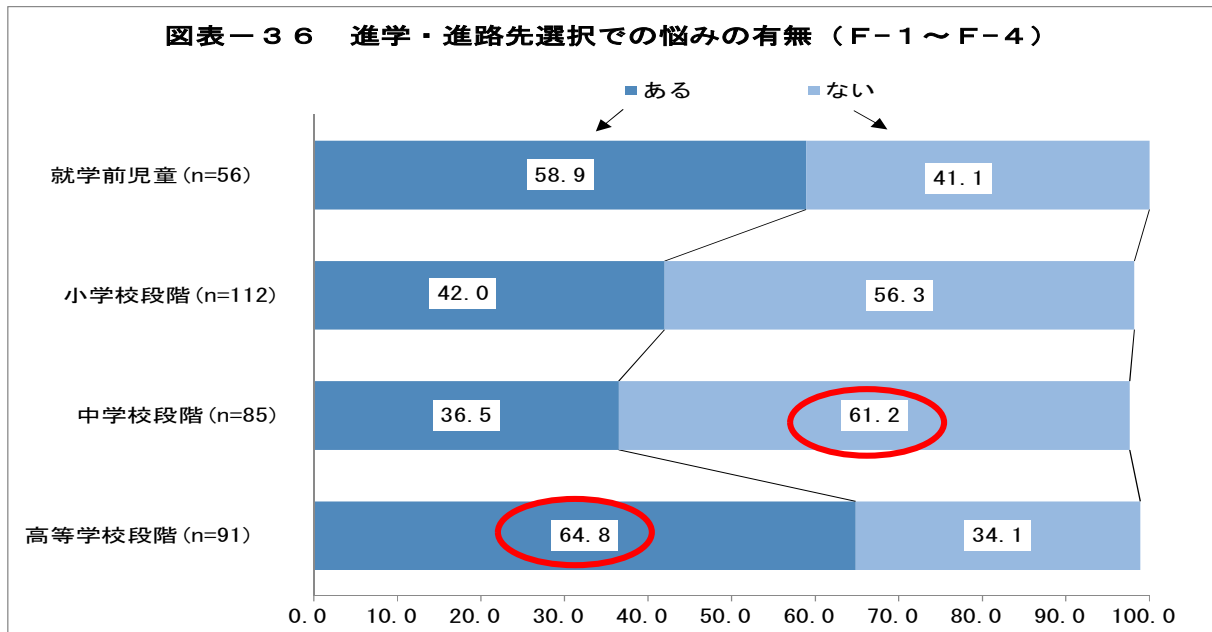
16. 進学・進路先について

①進学・進路先選択での悩みの有無

「ある」「ない」を尋ねた。

「ある」では、「高等学校段階」が64.8%と最も高く、次に「就学前児童」が58.9%である。

「ない」では、「中学校段階」が61.2%と最も高く、次に「小学校段階」が56.3%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

②進路先選択での悩んでいる理由

進路先を選択することで悩んでいる理由を尋ねた。

「進路が決まっていないから」「自分の適性がわからないから」「希望する進路先についての情報がないから」「勉強についていけるかどうか心配だから」を含めて9項目を複数回答とした。

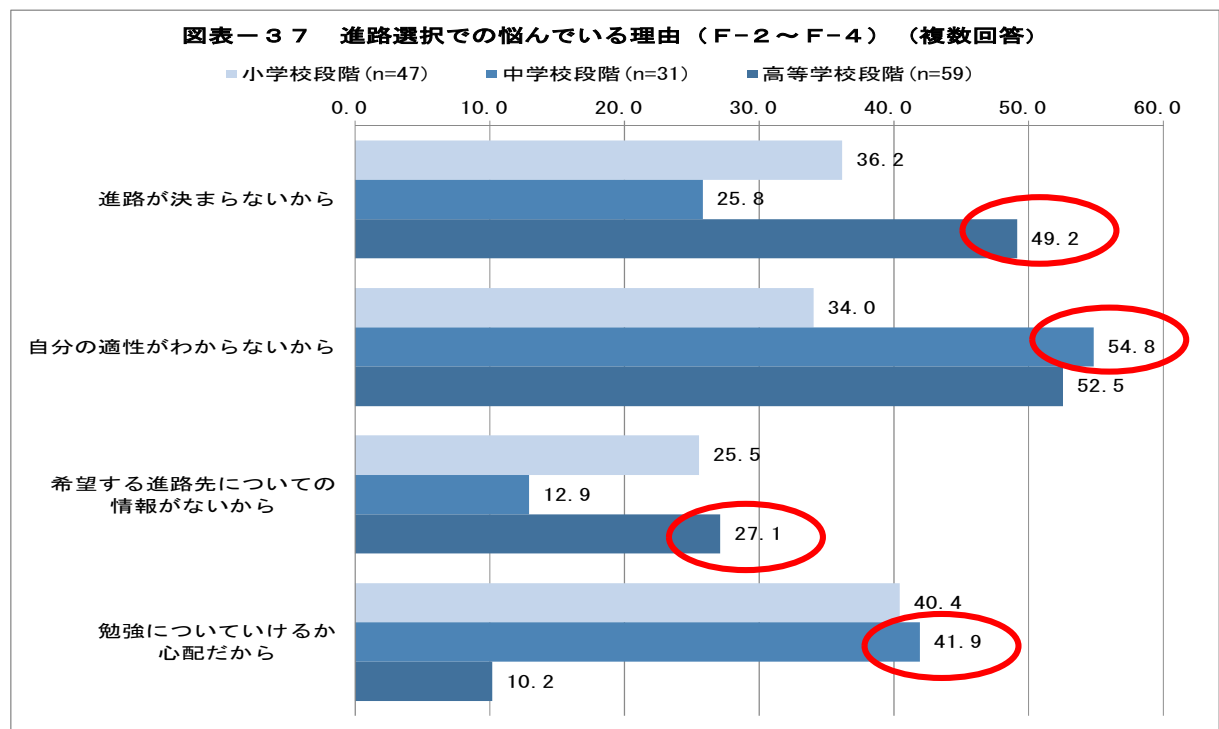
「進路が決まっていないから」では、「高等学校段階」が49.2%と最も高い。

「自分の適性がわからないから」では、「中学校段階」が54.8%と最も高く、次に「高等学校段階」が52.5%である。

い。

「希望する進路先についての情報がないから」では、「高等学校段階」が27.1%と最も高く、次に「小学校段階」が25.5%である。

「勉強についていけるかどうか心配だから」では、「中学校段階」が41.9%と最も高く、次に「小学校段階」が40.4%である。



※上記4項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

17. 意見・要望など

自由記述として回答のあった主な項目である。

| |
|------------------------|
| 職場・家族・医療者の理解がある |
| 親の介護 |
| 公共施設の料金減額 |
| 生命保険に加入できない |
| 得意なことと不得意なことがある |
| 雇用機会の拡大 |
| 親の死後が不安 |
| 移動手段の確保 |
| 苦情受付の周知 |
| サービスの充実 |
| サービスの手続きが複雑 |
| 漢字が読めない・ふりがなを希望 |
| ヘルプカードやヘルプマークを広めてもらいたい |
| 年金制度の充実 |
| 障害者がクレマーと思われる |
| 障害者のひきこもり対策 |
| あいさつの励行 |
| 障害者の集団生活の支援 |
| 生きづらい |
| 相談が解決につながらない |